

# FIT

# 2023

## 2023年度

# 入学試験要項

Fukuoka Institute of Technology a graduate school  
**福岡工業大学大学院**

工学研究科／修士課程・博士後期課程  
社会環境学研究科／修士課程

# CONTENTS

---

◇工学研究科修士課程	
◎一般入試・社会人入試要項	1
◎外国人留学生入試要項	4
◎教育・研究内容	
電子情報工学専攻	6
生命環境化学専攻	7
知能機械工学専攻	8
電気工学専攻	9
情報工学専攻	10
情報通信工学専攻	11
情報システム工学専攻	12
システムマネジメント専攻	13
◇社会環境学研究科修士課程	
◎一般入試・社会人入試要項	14
◎外国人留学生入試要項	17
◎教育・研究内容	
社会環境学専攻	19
◇工学研究科博士後期課程	
◎一般入試・社会人入試要項	20
◎外国人留学生入試要項	23
◎教育の目標	25
◎専攻名、入学定員及び専修部門	25
◎各専攻及び各専修部門の特色	
物質生産システム工学専攻	25
知能情報システム工学専攻	26
◎各授業科目の講義等の内容	
物質生産システム工学専攻	28
知能情報システム工学専攻	32
◇教育方法及び実施体制	36
◇昼夜開講制	37
◇学納金・奨学金	38
◇提出書類	
大学院所定用紙 様式A～J	

# 2023年度大学院入学試験日程表

## 1 試験期日

福岡工業大学 大学院工学研究科・社会環境学研究科【修士課程・博士後期課程】

項目／入試種別	修士課程一次入試 (社会人・留学生入試含む)	博士後期課程一次入試 (社会人・留学生入試含む)	修士課程二次入試 (社会人・留学生入試含む)	博士後期課程二次入試 (社会人・留学生入試含む)
願書受付期間 (必着)	2022年9月1日(木) ～2022年9月9日(金)		2023年1月13日(金) ～2023年1月20日(金)	
入学試験日	2022年 9月24日(土)	2022年 10月1日(土)	2023年 2月3日(金)	2023年 2月17日(金)
合格発表	2022年10月28日(金)		2023年3月4日(土)	
入学手続き締切日	2022年12月9日(金)		2023年3月9日(木)	

## 2 出願手続

### 提出書類

様式	提出書類	修士課程				博士後期課程		
		一般	社会人	留学生	協定校	一般	社会人	留学生
A	志願票(裏面履歴書)	○ A-1	○ A-1	○ A-2	○	○ A-1	○ A-1	○ A-3
B	写真票・受験票・受験料納金票	○	○	○	○	○	○	○
	卒業・修了(見込み)証明書	○	○	○	○	○	○	○
	成績証明書	○	○	○	○	○	○	○
C	研究経過報告書					○ C-1		○ C-2
D	志望理由書	○ D-1	○ D-1	○ D-1	○	○ D-1	○ D-1	○ D-2
E	研究業績					○ E-1	○ E-1	○ E-2
F	大学院生受入承諾書 ※ただし、本学学部生は除く。	○ F-1	○ F-1	○ F-1	○	○ F-1	○ F-1	○ F-2
G	研究計画書及び履修計画書		○				○	
H	受験許可・承諾書		○				○	
I	留学同意書(留学生のみ)	○		○	○	○		○
J	受験科目届出書 ※生命環境化学専攻、知能機械工学 専攻、電気工学専攻、情報通信 工学専攻、社会環境学専攻のみ。	○	○	○				
	日本語能力証明書 (公式証明書：日本語能力試験認 定結果及び成績に関する証明)			○	○			
	TOEICスコア(公式認定証)(任意)	○	○	○				

※協定校の提出書類様式は別に定める入試要項を参照のこと。

# 工学研究科修士課程《昼夜開講制》

## 1 専攻及び入学定員

専攻名	定員	専攻名	定員	専攻名	定員
電子情報工学専攻	8名	電気工学専攻	8名	情報システム工学専攻	8名
生命環境化学専攻	8名	情報工学専攻	10名	システムマネジメント専攻	6名
知能機械工学専攻	8名	情報通信工学専攻	8名		

## 2 出願資格（入学資格）

### ●一般入試

- ① 学校教育法第 83 条の大学を卒業した者及び2023年 3 月卒業見込みの者
- ② 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
- ③ 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
- ④ 文部科学大臣の指定した者
- ⑤ その他本学の大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者（短大等を卒業後 2 年以上、工学分野の実務経験があり、論文、特許、資格等により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。事前（一次入試受験希望者は 6 月 3 日、二次入試受験希望者は11月11日まで）に問い合わせること。）

### ●社会人入試

- ① 上記出願資格のいずれかを満たし、2023年 3 月末において、企業等に正規の社員又は職員として勤務中の者で、勤務成績が優秀であると所属長が認め、在職のまま入学を希望する者。
- ② 上記出願資格のいずれかを満たし、社会における経験が豊富であり且つ勉学意欲に富む者。

（例：退職者、自営業等）

なお、選考にあたっては、社会における経験、実績を評価に加味する。また、入学後の取り扱いとしては、学則に定められた教育課程に基づき、指導教員の下に修学（一年間以上）と研究に専念するものとする。社会人入試については事前（一次入試受験希望者は 6 月 3 日、二次入試受験希望者は11月11日まで）に問い合わせること。

## 3 入学試験日程

入試種別	出願期間（必着）	試験日	合格発表日
一次 [一般入試、社会人入試 (昼夜開講制) 共通]	2022年9月 1 日 (木) ～2022年9月 9 日 (金)	2022年 9月24日 (土)	2022年 10月28日 (金)
二次 [一般入試、社会人入試 (昼夜開講制) 共通]	2023年1月13日 (金) ～2023年1月20日 (金)	2023年 2月 3 日 (金)	2023年 3 月 4 日 (土)

ただし、専攻によっては二次の募集を行わないことがある。必ず事前に問い合わせること。

## 4 出願手続

### (1) 提出書類

#### ●一般入試

- ① 志願票 (裏面履歴書) 本学所定のもの (様式A-1)
- ② 写真票・受験票・受験料納金票 本学所定のもの (様式B)
- ③ 卒業 (見込み) 証明書 出身大学長または学部長が作成したもの
- ④ 成績証明書 出身大学長または学部長が作成したもの
- ⑤ 志望理由書 本学所定のもの (様式D-1)
- ⑥ 受験科目届出書 本学所定のもの (様式J)  
※該当専攻は4専攻のみ (生命環境化学専攻、知能機械工学専攻、電気工学専攻、情報通信工学専攻)。
- ⑦ TOEICスコア 公式認定証 (任意)
- ⑧ 大学院生受入承諾書 本学所定のもの (様式F-1) ※本学学部生は除く。
- ⑨ 留学同意書 本学所定のもので、**親権者**が記入・署名したもの (様式I)  
日本の大学を卒業した留学生及び卒業見込みの留学生のみ提出すること。

#### ●社会人入試

上記①～⑨の提出書類以外に研究計画書及び履修計画書 (様式G)、所属長の受験許可・承諾書 (様式H)

### (2) 受験料 30,000円 (一旦納入した受験料は返却しない)

### (3) 出願要領

- ・ 窓口受付は平日9時より16時までとする。
- ・ 郵送の場合は、本学所定の入学願書用封筒に提出書類及び受験料 (郵便局で為替にし、受け取り人欄は無記名) を同封して書留にて送付すること。

### (4) 願書提出先 福岡工業大学 入試課

〒811-0295 福岡市東区和白東 3-30-1 ☎092-606-0634 (直)  
※直接持参の場合は大学本部棟2階入試課へ (現金可)

## 5 選考方法

筆記試験、面接試験及び出願書類により総合的に判定する。

### (1) 試験科目、試験時間 (一般入試)

外国語	英語 (英和辞書貸与)	9:00 ~ 10:00
専門科目※	専門 I	10:20 ~ 11:50
	専門 II	13:00 ~ 14:30
面接		15:00 ~

※専門科目

#### ◇電子情報工学専攻

- 専門 I 工業数学 (必修)、電気回路、計算機工学、C言語プログラミング (3科目中、1科目選択)
- 専門 II 電子回路、電子物性工学、デジタル信号処理、電子計測 (4科目中、2科目選択)

#### ◇生命環境化学専攻

- 専門 I 応用数学、化学 (2科目必須)
- 専門 II 無機化学、有機化学、分析化学、生物化学、物理化学、食品化学 (6科目中、3科目選択)

#### ◇知能機械工学専攻

- 専門 I 工業数学、工業力学 (2科目必須)
- 専門 II 材料力学、機械力学、熱力学、流体力学、計測制御 (5科目中、2科目選択)

- ◇電気工学専攻
  - 専 門 I 電気回路 (必須)
  - 専 門 II 電気磁気学、情報制御工学 (2科目中、1科目選択)
- ◇情報工学専攻
  - 専 門 I 数学、コンピュータ工学 (2科目必須)
  - 専 門 II データ構造とアルゴリズム、プログラミング言語 (C) (2科目必須)
- ◇情報通信工学専攻
  - 専 門 I 数学、電気回路 (2科目必須)
  - 専 門 II 電子回路、電気磁気学、プログラミング言語 (C)、情報処理 (4科目中、2科目選択)
- ◇情報システム工学専攻
  - 専 門 I 数学 (必須)
  - 専 門 II 応用情報システム工学、計測制御システム工学、生体情報システム工学の分野より出題 (6問中3問選択)
- ◇システムマネジメント専攻
  - 専 門 I 数学 (必須)
  - 専 門 II 情報工学、生産管理システム工学 (2科目必須)

## (2) 試験科目、試験時間〔社会人入試 (昼夜開講制)〕

外国語	英語 (英和辞書貸与)	9:00 ~ 10:00
小論文		10:20 ~ 11:50
面接		15:00 ~

口頭問題 (小論文、研究計画書及び履修計画書による)

## (3) 試験集合場所 福岡工業大学

各専攻が指定した教室 (午前8時45分までに集合のこと)

## 6 合格発表

合格者受験番号をホームページ上で公開するとともに、文書で合格を通知する。

## 7 入学手続

一次入試合格者

入学手続書類提出・入学金納入期限	2022年12月9日(金)
前期授業料等納入期限	2023年3月9日(木)

二次入試合格者

入学手続書類提出・入学金、前期授業料等納入期限	2023年3月9日(木)
-------------------------	--------------

※提出・納入期限後はいかなる理由があっても受付をしないため注意すること。(P38参照)

## 8 学業特別奨学生

優秀な学生に授業料の半額を免除する制度があります。(P39参照)

# 工学研究科修士課程 外国人留学生入試要項

## 1 専攻及び入学定員

専攻名	定員	専攻名	定員	専攻名	定員
電子情報工学専攻	若干名	電気工学専攻	若干名	情報システム工学専攻	若干名
生命環境化学専攻	若干名	情報工学専攻	若干名	システムマネジメント専攻	若干名
知能機械工学専攻	若干名	情報通信工学専攻	若干名		

## 2 出願資格（入学資格）

- ① 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は修了見込みの者
- ② 外国の大学等において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者又は授与される見込みの者
- ③ 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者  
\*ただし、日本の大学を卒業（見込み）した外国人留学生は、一般または社会人入学試験を受験しなければならない。  
\* 国外協定校の学生及び国費外国人留学生（研究留学生）の受け入れについては別に定める。

## 3 入学試験日程

入試種別	出願期間（必着）	試験日	合格発表日
一次	2022年9月1日（木） ～2022年9月9日（金）	2022年 9月24日（土）	2022年 10月28日（金）
二次	2023年1月13日（金） ～2023年1月20日（金）	2023年 2月3日（金）	2023年 3月4日（土）

ただし、専攻によっては二次の募集を行わないことがある。必ず事前に問い合わせること。

## 4 出願手続

### (1) 提出書類

- ① 志願票（裏面履歴書） 本学所定のもの（様式A-2）
- ② 写真票・受験票・受験料納金票 本学所定のもの（様式B）
- ③ 卒業（見込み）証明書 出身大学長または学部長が作成したもの
- ④ 成績証明書 出身大学長または学部長が作成したもの
- ⑤ 志望理由書 本学所定のもの（様式D-1）
- ⑥ 大学院生受入承諾書 本学所定のもの（様式F-1）
- ⑦ 受験科目届出書 本学所定のもの（様式J）  
※該当専攻は4専攻のみ（生命環境化学専攻、知能機械工学専攻、電気工学専攻、情報通信工学専攻）。
- ⑧ 留学同意書 本学所定のもの、**親権者**が記入・署名したもの（様式I）
- ⑨ 日本語能力証明書 日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書
- ⑩ TOEICスコア 公式認定証（任意）

### (2) 受験料 30,000円（一旦納入した受験料は返却しない）

### (3) 出願要領

- ・ 窓口受付は平日9時より16時までとする。
- ・ 郵送の場合は、本学所定の入学願書用封筒に提出書類及び受験料（郵便局で為替にし、受け取り人欄は無記名）を同封して書留にて送付すること。

**(4) 願書提出先 福岡工業大学 入試課**

〒 811-0295 福岡市東区和白東 3-30-1 ☎ 092-606-0634 (直)

※直接持参の場合は大学本部棟 2 階入試課へ (現金可)

**5 選考方法**

筆記試験、面接試験及び出願書類により総合的に判定する。

**(1) 試験科目、試験時間**

外国語	英語 (英和辞書貸与)	9:00 ~ 10:00
専門科目※	専門 I	10:20 ~ 11:50
	専門 II	13:00 ~ 14:30
日本語能力試験		
面接		15:00 ~

※専門科目

- ◇電子情報工学専攻
  - 専門 I 工業数学 (必須)、電気回路、計算機工学、C 言語プログラミング (3 科目中、1 科目選択)
  - 専門 II 電子回路、電子物性工学、デジタル信号処理、電子計測 (4 科目中、2 科目選択)
- ◇生命環境化学専攻
  - 専門 I 応用数学、化学 (2 科目必須)
  - 専門 II 無機化学、有機化学、分析化学、生物化学、物理化学、食品化学 (6 科目中、3 科目選択)
- ◇知能機械工学専攻
  - 専門 I 工業数学、工業力学 (2 科目必須)
  - 専門 II 材料力学、機械力学、熱力学、流体力学、計測制御 (5 科目中、2 科目選択)
- ◇電気工学専攻
  - 専門 I 電気回路 (必須)
  - 専門 II 電気磁気学、情報制御工学 (2 科目中、1 科目選択)
- ◇情報工学専攻
  - 専門 I 数学、コンピュータ工学 (2 科目必須)
  - 専門 II データ構造とアルゴリズム、プログラミング言語 (C) (2 科目必須)
- ◇情報通信工学専攻
  - 専門 I 数学、電気回路 (2 科目必須)
  - 専門 II 電子回路、電気磁気学、プログラミング言語 (C)、情報処理 (4 科目中、2 科目選択)
- ◇情報システム工学専攻
  - 専門 I 数学 (必須)
  - 専門 II 応用情報システム工学、計測制御システム工学、生体情報システム工学の分野より出題 (6 問中 3 問選択)
- ◇システムマネジメント専攻
  - 専門 I 数学 (必須)
  - 専門 II 情報工学、生産管理システム工学 (2 科目必須)

**(2) 試験集合場所 福岡工業大学**

各専攻が指定した教室 (午前 8 時 45 分までに集合のこと)

**6 合格発表**

合格者受験番号をホームページ上で公開するとともに、文書で合格を通知する。

**7 入学手続**

一次入試合格者

入学手続書類提出・入学金納入期限	<b>2022年12月9日(金)</b>
前期授業料等納入期限	<b>2023年3月9日(木)</b>

二次入試合格者

入学手続書類提出・入学金、前期授業料等納入期限	<b>2023年3月9日(木)</b>
-------------------------	---------------------

※提出・納入期限後はいかなる理由があっても受付をしないため注意すること。(P 38 参照)

# 電子情報工学専攻の教育・研究内容

## ◆アドミッションポリシー

電子情報工学専攻では、入学者として次のような能力と資質を持つ学生を国内外から広く受け入れます。

- (1) (意欲) 電子情報工学分野の電子デバイス、電子回路、コンピュータ、計測制御、信号及び情報処理技術等に関する基本知識を有し、その専門分野においてさらに勉強し、研究・開発能力を高めようとする強い意欲を持つ者。
- (2) (チャレンジ精神) 研究課題に果敢にチャレンジする精神と実行力に満ち、着実に研究成果を積み上げていく学問的忍耐力のある者。
- (3) (協調性) 将来の健全な社会人として、コミュニケーション能力を高め、人と協調して問題を解決する能力を身につける意欲を持つ者。
- (4) (社会貢献) 高度技術社会において、電子情報工学技術で社会に貢献する意欲を持つ者。

なお、本専攻への入学は、電子情報数学および回路やソフトウェアなどの基礎知識を有していること、ならびに、専門的な英語の読解および記述能力を有していること、電子情報分野の発展に貢献しようとする強い意欲があることが必要とされます。

## ◆教育・研究内容

高度情報化社会を支える基盤はコンピュータの発展である。その背景、基礎をなしているのはエレクトロニクス、計測制御、電子物性材料などの電子工学全体である。現在の高度科学技術の時代は多くの電子情報技術者を求めており、電子情報工学に関する大学教育の重要性は今まで以上にますます高まっている。しかし、電子情報工学に関して理解を深めるのは容易ではなく、工業的側面からの理解だけでなく、物性的観点からの理解も必要である。従って、学部教育の上に立った大学院課程による、より専門的な教育が必要とされている。大学院での教育は高度な能力を備えた電子情報技術者を要求している現代社会の大学に対する要請に応える道となっている。

以上の考えに立って、本専攻に次の4授業科目区分を配置している。電子物性工学では固体電子物性の基礎理論について、電子計測工学ではセンサーをはじめ電子計測に関する基礎と応用理論について、電子情報システムでは情報処理の基礎および応用理論について、電子応用工学では半導体、磁性体などの素材を用いた電子デバイス及び電子回路応用について講述する。

これらにより専門の研究遂行上必要な基本知識を修得させると共に、電子情報工学演習や英語に関する演習を通じて、研究者・技術者に必要な創造能力、語学力、解析能力、発表能力などの育成を図る。また、大学院の講義および特別研究の基礎として、応用解析、情報数理、応用物理学特論などを置く。

特別研究として、特定の研究課題について研究を行わせて、研究遂行能力を修得させ、研究の成果を基に、論理的に構成された修士学位論文を作成させる。

## 2023年度 研究指導教員

専修区分	担当教員		
電子物性工学	教授	博士(工学)	片山 龍一
	教授	博士(理学)	前田 文彦
	准教授	博士(理学)	中村 壮智
電子計測工学	教授	博士(工学)	近木 祐一郎
	教授	博士(工学)	倪 宝栄
	准教授	博士(工学)	小野美 武
電子情報システム	教授	博士(工学)	松木 裕二
	教授	博士(工学)	盧 存偉
	准教授	博士(情報工学)	田村 瞳
電子応用工学	教授	博士(工学)	江口 啓
	教授	博士(工学)	松井 義弘

※担当教員の特別研究テーマについては、大学院ホームページにてご確認ください。

# 生命環境化学専攻の教育・研究内容

## ◆アドミッションポリシー

生命環境化学専攻では、入学者として次のような能力と資質を持つ学生を国内外から広く受け入れます。

- (1) 本専攻で学ぶために必要な学習履歴があり、十分な一般および専門の基礎学力を持つ者。
- (2) 化学関連の4つの分野の知識と技術を高め、継続発展的な社会作りに意欲を持つ者。
- (3) 既成の概念にとらわれない認識力と判断力を有し、新しい技術の創造と応用に意欲を持つ者。
- (4) 社会人として活躍するために必要不可欠な問題解決能力やコミュニケーション能力を身につける意欲を持つ者。

なお、本専攻への入学は、化学関連の基礎知識を有していること、化学関連の4つの分野である①環境・エネルギー、②物質化学、③バイオ、④食品、各分野の発展に貢献しようとする強い意欲を持つことが必要とされます。

## ◆教育・研究内容

現在、様々な機能を持った新しい材料が次々に開発され、多くの産業の発展を支えている。本特別研究では、先端産業への応用を目指して、新規な有機・無機材料、生体材料の開発、及び、新規な化学的・生物学的分析解析手法の開発に関連するテーマを設定し、これに必要な教育・研究を行う。具体的には、計算機化学による新規触媒の開発、パワーデバイス向けの高熱伝導窒化ケイ素セラミックスの開発、光を利用した簡易的な環境分析手法の開発、生体関連有機物の環境中での合成と生命の起源、ナノ構造をもつ有機無機複合機能材料の開発、環境中の機能性微生物検出方法の開発、遺伝子工学や細胞工学を利用した分子レベルでの生命現象の解明などの研究テーマが設定されている。

## 2023年度 研究指導教員

専修区分	担当教員		
生命環境化学	教授	博士(医学)	赤木紀之
	教授	博士(理学)	蒲池高志
	教授	Ph.D.	北山幹人
	教授	博士(工学)	桑原順子
	教授	博士(工学)	呉行正
	教授	博士(農学)	永田純一
	教授	博士(工学)	松山清
	教授	博士(理学)	三田肇
	准教授	博士(理学)	天田啓
	准教授	博士(環境科学)	久保裕也
	准教授	博士(農学)	長谷(田丸)静香
	准教授	博士(工学)	宮元展義
助教	博士(理学)	福永知則	

※担当教員の特別研究テーマについては、大学院ホームページにてご確認ください。

工学研究科修士課程  
(一般・社会人)

工学研究科修士課程  
(外国人留学生)

社会環境学研究科修士課程  
(一般・社会人)

社会環境学研究科修士課程  
(外国人留学生)

工学研究科博士後期課程  
(一般・社会人)

工学研究科博士後期課程  
(外国人留学生)

共通事項

# 知能機械工学専攻の教育・研究内容

## ◆アドミッションポリシー

知能機械工学専攻では、入学者として次のような能力と資質を持つ学生を国内外から広く受け入れます。

- (1) 本専攻で学ぶために必要な学習履歴があり、十分な一般および専門の基礎学力を持つ者。
- (2) 機械工学の知識と技術を高め、継続発展的な社会作りに意欲を持つ者。
- (3) 既成の概念にとらわれない認識力と判断力を有し、新しい技術の創造と応用に意欲を持つ者。
- (4) 社会人であれば、更なる問題解決能力やコミュニケーション能力を身につけるなど、自己実現の意識が高い者。

なお、本専攻への入学は、機械工学およびその周辺分野の基礎知識を有していること、社会の発展に貢献しようとする強い意欲を持つことが必要とされます。

## ◆教育・研究内容

本専攻はメカトロニクス関連の高度な技術者を育成することを目的に設置されている。

- 知能機械基礎学区分**：機械工学の基礎科目の中から特に流体工学と伝熱工学を取り上げ、数学的に一般化された基礎式からその高度な解析法まで、また、各種流体機器・伝熱機器・熱流体システムについて講述し、それらに関する研究を行っている。
- 知能機械設計学区分**：機械の高性能化、高精度化、寿命向上を目指した設計がますます重要となる状況を鑑み、機械構造・材料の静・動的強度やトライボロジー分野の諸問題・技術について講述するとともに、それらに関連する研究を行っている。
- 超精密加工学区分**：精密塑性加工や接合技術、高精度加工を可能にする切削工具、CAD/CAM/CATに代表される機械加工の高速自動化、レーザーや超音波を用いた精密評価技術などに関して講述し、それらに関連する研究を行っている。
- 計測制御工学区分**：フィードバック制御、状態空間制御理論を基礎として、適応制御、ロバスト制御、デジタル信号処理等を、応用面としてはモータドライブエレクトロニクスやセンサ等を講述し、それらに関連する研究を行っている。

特別研究として、各区分では特定の研究課題について研究を行い、研究の成果を基に、修士学位論文を作成させることを重視している。その際、学位審査の方法として、公開の「修士論文発表会」を行っている。

2年次の前半に「中間発表会」も行っている。また、研究成果を学会発表を行うように指導している。

## 2023年度 研究指導教員

専修区分	担当教員		
知能機械基礎学	教授	博士(工学)	江頭 竜
	教授	博士(工学)	高津 康幸
	准教授	博士(工学)	駒田 佳介
	准教授	博士(理学)	竹田 寛志
	助教	博士(理学)	下川 倫子
知能機械設計学	教授	工学博士	朱 世杰
	教授	博士(工学)	数 仲馬恋典
超精密加工学	教授	工学博士	仙波 卓弥
	教授	博士(工学)	廣田 健治
	教授	博士(工学)	山岸 里枝
計測制御工学	教授	博士(工学)	村山 理一
	准教授	博士(工学)	加藤 友規
	准教授	博士(工学)	榎田 諭

※担当教員の特別研究テーマについては、大学院ホームページにてご確認ください。

# 電気工学専攻の教育・研究内容

## ◆アドミッションポリシー

電気工学専攻では、入学者としての次のような能力と資質を持つ学生を国内外から広く受け入れます。

- (1) 電気系工学分野に関わる基礎的学力を有し、それをさらに高めようとする意欲を持つ者。
- (2) 創意工夫の精神を持ち、電気関連技術の諸分野において生ずる問題を解決する能力を高めようとする意欲のある者。
- (3) 人と協力して問題の解決にあたるとともに、職業人としてのみでなく社会人としても必要なコミュニケーション能力を高めようとする者。
- (4) グローバル産業社会で活動する技術者として必要な英語に関して基礎的な能力を有し、それをさらに高めようとする意欲を持つ者。

なお、本専攻への入学は、電気回路、電磁気学、電気エネルギーシステム工学、情報制御工学、電気機器・パワーエレクトロニクスの基礎知識を有していること、電気工学を持続性のある社会の構築に向けて応用・発展させようとする強い意欲を持つことが必要とされます。

## ◆教育・研究内容

本専攻では、以下に示す4つの専修区分で、それぞれ関連する産業分野を意識した特色ある教育・研究指導を行っています。各区分は次のような志をもつ方に適しています。

- 電気基礎学専修区分**：電気工学のいずれにも共通する基盤学術を広範囲に修得し、教育、パルス電磁エネルギー、放電、プラズマ、計測、誘電・絶縁材料、磁性材料、半導体・物性デバイスなどに関連する分野での活躍を志すもの。新しい分野の開拓や先端的基础技術の修得を志すもの。
- 電気エネルギーシステム工学専修区分**：現代の社会基盤・産業基盤を支える、電力系統、発電、送配電、変電、直流送電、電力自由化、分散型電源、スマートグリッド、絶縁、高電圧、エネルギー変換・貯蔵装置、新エネルギー、電力用設備および機器などの分野における活躍を志すもの。
- 情報制御工学専修区分**：電子・情報・システム領域の、生体・医用電子、電子応用、バイオニクス、制御・計測、ロボティクス、ニューロ・ファジー・カオス、最適化、インテリジェントロボット&オートメーション、福祉応用、環境管理などの分野における活躍を志すもの。
- 電気機器・パワーエレクトロニクス専修区分**：電気機器・パワーエレクトロニクス・制御などの基礎技術から産業・交通運輸・社会システム・家電などの広い応用分野、電気を有効に使う技術から、新たなエネルギーを作り出す技術まで、広い分野での活躍を志すもの。

修士論文執筆のための特別研究は、専門知識のより深い習得と研究遂行能力の養成に重要な役割を果たしています。

## 2023年度 研究指導教員

専修区分	担当教員		
電気基礎学	教授	博士(理学)	北川 二郎
	准教授	博士(工学)	北崎 訓
	准教授	博士(工学)	鈴木 恭一
	助教	博士(理学)	中西 真大
電気エネルギーシステム工学	教授	博士(工学)	井上 昌睦
	教授	工学博士	梶原 寿了
	教授	博士(工学)	田島 大輔
電気機器・パワーエレクトロニクス	教授	博士(工学)	大山 和宏
	教授	工学博士	松尾 敬二

※担当教員の特別研究テーマについては、大学院ホームページにてご確認ください。

# 情報工学専攻の教育・研究内容

## ◆アドミッションポリシー

情報工学の分野では技術革新が急速に進み、インターネットは電子商取引や電子政府など社会の仕組みをも変えようとしています。また、マイクロプロセッサの発達により、日常生活のあらゆる側面をコンピュータが支える高度情報化社会が到来しようとしています。そこで、情報工学専攻では来るべき高度情報化社会を支える高度情報技術者を育成するために、次のような学生を受け入れます。

- (1) 本専攻で学ぶために必要な学習履歴があり、十分な一般および専門の基礎学力を持つ者
- (2) 情報技術の諸分野において生ずる問題を解決する能力を高めようとする意欲のある者
- (3) 人と協力して問題の解決にあたり、職業人としてのみでなく社会人としても必要なコミュニケーション能力を高めようとする者

なお、本専攻への入学は、情報科学、プログラミング、人工知能、コンピュータ技術の基礎知識を有していること、情報工学を深く学ぼうとする強い意欲を持つことが必要とされます。

## ◆教育・研究内容

現在のインターネットや近未来のマルチメディア処理においては、コンピュータ科学とソフトウェア工学の発展が重要である。本専攻では、21世紀の高度情報化社会の実現に不可欠なこれらの分野に関連した高度な科学技術と知識を有した技術者・研究者を育成するために次の4授業科目区分を教授する。

知能情報工学においては、知能をもつ機械を構築するための基礎となる人工知能や知能情報処理などについて講述する。知能システム工学においては、知的なシステムを構築するための知識や技術、知能システムを集積化するLSIの基本と現在・将来のシステムLSIなどについて講述する。メディア情報工学においては、コンピュータ画像処理とメディア情報機器などについて講述する。ソフトウェア工学においては、高品質のソフトウェアを効率よく開発したり、利用する技術などについて講述する。また、大学院の講義および特別研究の基礎として、応用数学特論および応用物理学特論を置く。

特別研究として、特定の研究課題について問題点の発見、解決法の模索および新発想の推考を行うことのできる研究遂行能力を修得させ、研究の成果を基に修士学位論文を作成させる。また、国際的素養の育成に留意する。

## 2023年度 研究指導教員

専修区分	担当教員		
知能情報工学	教授	博士(理学)	正代隆義
	教授	博士(工学)	前田道治
	准教授	博士(工学)	戸田航史
	准教授	博士(理学)	中川正基
	准教授	博士(工学)	宮田考史
知能システム工学	教授	博士(工学)	山内寛行
	助教	博士(理学)	山口裕
メディア情報工学	教授	博士(理学)	柏浩司
	教授	博士(工学)	福本誠
	准教授	博士(工学)	有吉哲也
	准教授	博士(工学)	佐竹純二
ソフトウェア工学	教授	博士(工学)	石原真紀夫
	教授	博士(情報学)	種田和正
	教授	博士(理学)	馬場謙介

※担当教員の特別研究テーマについては、大学院ホームページにてご確認ください。

# 情報通信工学専攻の教育・研究内容

## ◆アドミッションポリシー

情報通信工学専攻では、入学者として次のような能力と資質を持つ学生を国内外から広く受け入れます。

- (1) 専門分野について国内外の情報を収集し、理解するために必要な英語力を有するとともに、さらにその力を高める意欲を持つ者。
- (2) 専門領域における問題の設定および問題解決の能力を高めることに強い意欲を持つ者。
- (3) 専門分野における更なる研鑽と研究・開発能力を高めようとする強い意欲を持つ者。
- (4) 将来の健全な社会人として、コミュニケーション能力を高め、人と協調して問題の解決に当たることができる能力を身につける意欲を持つ者。

なお、本専攻への入学は情報通信工学に関する基礎学力を有していることと、専門分野を深く学ぼうとする強い意欲を持つことが必要とされます。

## ◆教育・研究内容

本専攻では、高度情報化社会を技術的側面から支える優れた技術者と研究者を育成するため、情報通信工学分野の基礎と応用について教授する。

情報伝送工学では、情報ネットワークを支える有線・無線伝送について講述する。環境電磁工学では、無線通信システムやその理論的基礎となる電磁界解析手法について講述する。システム情報工学では、信号処理の通信技術への応用について講述する。情報ネットワーク工学では、ネットワークの高速化やマルチメディアおよびそれらの効率化について講述する。

特別研究として、情報通信に関する特定の研究課題について、研究遂行能力を修得させ、研究の成果を基に修士学位論文を作成させる。また、研究成果を学会等で発表できるように指導する。

### 2023年度 研究指導教員

専修区分	担当教員		
情報伝送工学	教授	博士(工学)	中嶋徳正
	教授	博士(工学)	前田洋
環境電磁工学	教授	博士(ソフトウェア情報学)	内田法彦
	教授	博士(理学)	中村龍史
	教授	博士(工学)	藤崎清孝
システム情報工学	教授	博士(工学)	渡辺仰基
	教授	博士(工学)	松尾慶太
	准教授	博士(工学)	池田誠
情報ネットワーク工学	教授	博士(ソフトウェア情報学)	石田智行
	教授	博士(ソフトウェア情報学)	杉田薫
	教授	博士(工学)	パロリレオナルド
	教授	博士(工学)	山元規靖

※担当教員の特別研究テーマについては、大学院ホームページにてご確認ください。

# 情報システム工学専攻の教育・研究内容

## ◆アドミッションポリシー

情報システム工学専攻では、入学者として次のような能力と資質を持つ学生を国内外から広く受け入れます。

- (1) 本専攻で学ぶために必要な学修履歴があり、十分な一般および専門の基礎学力を持つ者。
- (2) 情報工学の知識と技術を高め、継続発展的な社会作りに意欲を持つ者。
- (3) 既成の概念にとらわれない認識力と判断力を有し、新しい技術の創造と応用に意欲を持つ者。
- (4) 社会人であれば、更なる問題解決能力やコミュニケーション能力を身につけるなど、自己実現の意識が高い者。

なお、本専攻への入学は、情報技術、生体システム、ロボット制御の基礎知識を有していること、情報社会の発展に貢献しようとする強い意欲を持つことが必要とされます。

## ◆教育・研究内容

情報システム工学専攻では、情報システムの基礎と応用に関する学識と研究能力の修得を目的として、情報技術・ロボット制御・生体システムのそれぞれの知識と技術を深化的に発展させる3つの専修区分を設けています。情報技術に位置付けられる、「応用情報システム工学」では、人工知能・非線形理論・量子力学など、次世代情報サービスの基礎となる先駆的な知識と技術について学修します。ロボット制御に位置付けられる「計測制御システム工学」では、ロボットの設計・開発・制御に必要とされる計測技術、機械設計技術、制御技術について学修します。生体システムに位置付けられる「生体情報システム工学」では、生体情報計測・医用工学・生体医工学など、次世代医療サービスの実用化に向けた学問領域の知識と技術について学修します。また、専修区分を有機的に結びつけることができる総合力を身につけるために、専攻内共通科目を設け、担当教員によるオムニバス形式による横断的な講義・演習を実施することで情報システム工学技術の多様な応用手法を学びます。このような、講義、演習、特別研究からなるカリキュラムを準備し、以下の指針の下で教育研究を行います。

- ① 情報システム工学科のカリキュラムとの連続性に配慮し、高次の専門知識に基づく問題発見および創造的解決力を育成する。
- ② 先駆的技術を迅速かつ正確に理解するための英語文章読解能力と研究成果を国際的に公表していくための英語表現能力の向上を図る。
- ③ 学術成果の社会還元を目的として、学術雑誌掲載を目標とした論文作成能力を育成する。
- ④ 共同研究あるいは共同開発のグループワークを円滑にするコミュニケーション能力の向上を図る。

## 2023年度 研究指導教員

専修区分	担当教員		
計測制御システム工学	教授	博士(工学)	利光和彦
	教授	博士(工学)	森園哲也
	教授	博士(工学)	吉田耕一
応用情報システム工学	教授	博士(理学)	山口明宏
	准教授	博士(工学)	作田誠
	准教授	博士(理学)	丸山勲
生体情報システム工学	教授	博士(情報工学)	徳安達士
	准教授	博士(工学)	下戸健
	助教	博士(工学)	李知炯

※担当教員の特別研究テーマについては、大学院ホームページにてご確認ください。

# システムマネジメント専攻の教育・研究内容

## ◆アドミッションポリシー

システムマネジメント専攻では、入学者として次のような能力と資質を持つ学生を国内外から広く受け入れます。

- (1) これまで学んだ専門知識をさらに深めることを目指し、高い技術力を習得することに意欲をもつ者。
- (2) 未知の問題に対しても挑戦する覇気を持ち、その成果を国内外において積極的に発信していく意欲をもつ者。
- (3) 博士後期課程への進学を念頭において、高度な専門知識と応用力を身に付けようとする者。

## ◆教育・研究内容

近年、経営環境の情報化・国際化に伴い、システムが複雑さを増し、かつビッグデータに象徴されるように、情報が量的に爆発的な増加をすると共に質的にも劇的に変化し、システムの最適化やデータを解析するために、より高度な数理的手法に関する知識や技術が不可欠となってきています。

本専攻は3区分を設置しており、(1) 経営システム工学区分ではシステムの数理モデル化とその解析手法について、(2) 生産システム工学区分では生産システムの最適化・効率化技法について、(3) 情報メディアシステム工学区分ではマルチメディア統合理解、感性情報学について学習します。

## 2023年度 研究指導教員

専修区分	担当教員		
経営システム工学	教授	経済学博士	宋 宇
	教授	博士(工学)	田 嶋 拓 也
	准教授	博士(工学)	小 林 稔
	准教授	博士(工学)	傅 靖
生産システム工学	教授	博士(理学)	井 口 修 一
	教授	博士(工学)	藤 岡 寛 之
情報メディアシステム工学	教授	博士(工学)	前 原 秀 明
	准教授	博士(工学)	クラ エリス
	助教	博士(工学)	竹之内 宏

※担当教員の特別研究テーマについては、大学院ホームページにてご確認ください。

# 社会環境学研究科修士課程《昼夜開講制》

## 1 専攻及び入学定員

専攻名	定員
社会環境学専攻	6名

## 2 出願資格（入学資格）

### ●一般入試

- ① 学校教育法第83条の大学を卒業した者及び2023年3月卒業見込みの者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- ④ 文部科学大臣の指定した者
- ⑤ その他本学の大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。事前（一次入試受験希望者は6月3日、二次入試受験希望者は11月11日まで）に問い合わせること。

### ●社会人入試

- ① 上記出願資格のいずれかを満たし、2023年3月末において企業等に正規の社員又は職員として勤務中の者で、勤務成績が優秀であると所属長が認め、在職のまま入学を希望する者。
- ② 上記出願資格のいずれかを満たし、社会における経験が豊富であり且つ勉学意欲に富む者。

（例：退職者、自営業等）

なお、選考にあたっては、社会における経験、実績を評価に加味する。また、入学後の取り扱いとしては、学則に定められた教育課程に基づき、指導教員の下に修学（一年間以上）と研究に専念するものとする。社会人入試については事前（一次入試受験希望者は6月3日、二次入試受験希望者は11月11日まで）に問い合わせること。

## 3 入学試験日程

入試種別	出願期間（必着）	試験日	合格発表日
一次 [一般入試、社会人入試 (昼夜開講制) 共通]	2022年9月1日(木) ～2022年9月9日(金)	2022年 9月24日(土)	2022年 10月28日(金)
二次 [一般入試、社会人入試 (昼夜開講制) 共通]	2023年1月13日(金) ～2023年1月20日(金)	2023年 2月3日(金)	2023年 3月4日(土)

ただし、二次の募集を行わないことがある。必ず事前に問い合わせること。

## 4 出願手続

## (1) 提出書類

## ●一般入試

- ① 志願票(裏面履歴書) 本学所定のもの(様式A-1)
- ② 写真票・受験票・受験料納金票 本学所定のもの(様式B)
- ③ 卒業(見込み)証明書 出身大学長または学部長が作成したもの
- ④ 成績証明書 出身大学長または学部長が作成したもの
- ⑤ 志望理由書 本学所定のもの(様式D-1)
- ⑥ 受験科目届出書 本学所定のもの(様式J)
- ⑦ TOEICスコア 公式認定証(任意)
- ⑧ 大学院生受入承諾書 本学所定のもの(様式F-1) ※本学学部生は除く。
- ⑨ 留学同意書 本学所定のもので、**親権者**が記入・署名したもの(様式I)  
日本の大学を卒業した留学生及び卒業見込みの留学生のみ提出すること。

## ●社会人入試

上記①～⑨の提出書類以外に研究計画書及び履修計画書(様式G)、所属長の受験許可・承諾書(様式H)

## (2) 受験料 30,000円(一旦納入した受験料は返却しない)

## (3) 出願要領

- ・窓口受付は平日9時より16時までとする。
- ・郵送の場合は、本学所定の入学願書用封筒に提出書類及び受験料(郵便局で為替にし、受け取り人欄は無記名)を同封して書留にて送付すること。

## (4) 願書提出先 福岡工業大学 入試課

〒811-0295 福岡市東区和白東3-30-1 ☎092-606-0634(直)

※直接持参の場合は大学本部棟2階入試課へ(現金可)

## 5 選考方法

筆記試験、面接試験及び出願書類により総合的に判定する。

## (1) 試験科目、試験時間【一般入試】

外国語	英語(英和辞書貸与)	9:00～10:00
専門科目※	専門Ⅰ	10:20～11:50
	専門Ⅱ	13:00～14:30
面接		15:00～

※専門科目

専門Ⅰ 下記の科目から、第一志望専修の指導教員の科目を選択すること。

専門Ⅰ	指導教員	専門Ⅰ	指導教員
環境経済学	鄭雨宗	国際法	中川智治
環境エネルギー	鄭雨宗	国際判例演習	中川智治
アジア経済	藤井洋次	環境政策	渡邊智明
国際貿易	藤井洋次	環境法	渡邊智明
技術経営	尹諒重	環境社会学	陳艶艶
人的資源管理	尹諒重	文化環境論	田中久美子
環境経営学	松藤賢二郎		
マーケティング	松藤賢二郎		

専門Ⅱ 小論文

(2) 試験科目、試験時間【社会人入試（昼夜開講制）】

外国語 英語（英和辞書貸与） 9：00～10：00  
小論文 10：20～11：50  
面接 15：00～

□頭問題（小論文、研究計画書及び履修計画書による）

(3) 試験集合場所 **福岡工業大学**

社会環境学専攻が指定した教室（午前 8 時 45 分までに集合のこと）

## 6 合格発表

合格者受験番号をホームページ上で公開するとともに、文書で合格を通知する。

## 7 入学手続

一次入試合格者

入学手続書類提出・入学金納入期限	<b>2022年12月9日(金)</b>
前期授業料等納入期限	<b>2023年3月9日(木)</b>

二次入試合格者

入学手続書類提出・入学金、前期授業料等納入期限	<b>2023年3月9日(木)</b>
-------------------------	---------------------

※提出・納入期限後はいかなる理由があっても受付をしないため注意すること。（P 38 参照）

## 8 学業特別奨学生

優秀な学生に授業料の半額を免除する制度があります。（P 39 参照）

# 社会環境学研究科修士課程 外国人留学生入試要項《昼夜開講制》

## 1 専攻及び入学定員

専攻名	定員
社会環境学専攻	若干名

## 2 出願資格（入学資格）

- ① 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は修了見込みの者
  - ② 外国の大学等において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者又は授与される見込みの者
  - ③ 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- \*ただし、日本の大学を卒業（見込み）した外国人留学生は、一般又は社会人入学試験を受験しなければならない。
- \*国外協定校の学生及び国費外国人留学生（研究留学生）の受け入れについては別に定める。

## 3 入学試験日程

入試種別	出願期間（必着）	試験日	合格発表日
一次	2022年9月1日（木） ～2022年9月9日（金）	2022年 9月24日（土）	2022年 10月28日（金）
二次	2023年1月13日（金） ～2023年1月20日（金）	2023年 2月3日（金）	2023年 3月4日（土）

ただし、二次の募集を行わないことがある。必ず事前に問い合わせること。

## 4 出願手続

### (1) 提出書類

- ① 志願票（裏面履歴書） 本学所定のもの（様式A-2）
- ② 写真票・受験票・受験料納金票 本学所定のもの（様式B）
- ③ 卒業（見込み）証明書 出身大学長または学部長が作成したもの
- ④ 成績証明書 出身大学長または学部長が作成したもの
- ⑤ 志望理由書 本学所定のもの（様式D-1 ※青島科技大学は様式D-2）
- ⑥ 大学院生受入承諾書 本学所定のもの（様式F-1）
- ⑦ 受験科目届出書 本学所定のもの（様式J）
- ⑧ 留学同意書 本学所定のもの、**親権者**が記入・署名したもの（様式I）
- ⑨ 日本語能力証明書 日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書
- ⑩ TOEICスコア 公式認定証（任意）

### (2) 受験料 **30,000円**（一旦納入した受験料は返却しない）

### (3) 出願要領

- ・窓口受付は平日9時より16時までとする。
- ・郵送の場合は、本学所定の入学願書用封筒に提出書類及び受験料（郵便局で為替にし、受け取り人欄は無記名）を同封して書留にて送付すること。

#### (4) 願書提出先 福岡工業大学 入試課

〒 811-0295 福岡市東区和白東 3-30-1 ☎ 092-606-0634 (直)

※直接持参の場合は大学本部棟 2階入試課へ (現金可)

### 5 選考方法

筆記試験、面接試験及び出願書類により総合的に判定する。

#### (1) 試験科目、試験時間

外国語	英語 (英和辞書貸与)	9:00 ~ 10:00
専門科目※	専門 I	10:20 ~ 11:50
	専門 II	13:00 ~ 14:30
面接		15:00 ~

※専門科目

専門 I 下記の科目から、第一志望専修の指導教員の科目を選択すること。

専門 I	指導教員	専門 I	指導教員
環境経済学	鄭 雨宗	国際法	中川 智治
環境エネルギー	鄭 雨宗	国際判例演習	中川 智治
アジア経済	藤井 洋次	環境政策	渡邊 智明
国際貿易	藤井 洋次	環境法	渡邊 智明
技術経営	尹 諒重	環境社会学	陳 艶艶
人的資源管理	尹 諒重	文化環境論	田中久美子
環境経営学	松藤賢二郎		
マーケティング	松藤賢二郎		

専門 II 小論文

#### (2) 試験集合場所 福岡工業大学

社会環境学専攻が指定した教室 (午前 8 時 45 分までに集合のこと)

### 6 合格発表

合格者受験番号をホームページ上で公開するとともに、文書で合格を通知する。

### 7 入学手続

一次入試合格者

入学手続書類提出・入学金納入期限	<b>2022年12月9日(金)</b>
前期授業料等納入期限	<b>2023年3月9日(木)</b>

二次入試合格者

入学手続書類提出・入学金、前期授業料等納入期限	<b>2023年3月9日(木)</b>
-------------------------	---------------------

※提出・納入期限後はいかなる理由があっても受付をしないため注意すること。(P38 参照)

# 社会環境学専攻の教育・研究内容

## ◆アドミッションポリシー

社会環境学研究科では、入学者として次のような能力と資質を持つ学生を国内外から広く受け入れます。

- (1) 学部レベルよりもさらに広く深く勉強したいという者。
- (2) 母国に帰って、あるいは外国で活動したいと考えている留学生。
- (3) 社会で活動しているなかで一層の能力向上を図ろうという者。
- (4) 社会人であれば、更なる問題解決能力やコミュニケーション能力を身につけるなど、自己実現の意識が高い者。
- (5) 留学生に関しては、日本語能力試験（JLPT）N2 以上程度の日本語能力を有する者。

なお、本研究科への入学は、環境に関する諸問題に関する基礎知識を有していること、環境に関する諸問題を総合的に理解し、その解決方法の立案・実践について深く学ぼうとする強い意欲を持つことが必要とされます。

## ◆教育・研究内容

社会環境学専攻では、環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを研究する能力を醸成した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる高度な専門性が求められる職業を担うための能力を培うことを目的とする。

### 2023年度 研究指導教員

担当教員		
教授	博士(商学)	鄭 雨 宗
教授	博士(法学)	中 川 智 治
教授	博士(経済学)	藤 井 洋 次
教授	博士(経営学)	松 藤 賢二郎
教授	博士(商学)	尹 諒 重
教授	博士(法学)	渡 邊 智 明
准教授	博士(文学)	田 中 久美子
准教授	博士(文化情報学)	陳 艷 艷

※担当教員の特別研究テーマについては、大学院ホームページにてご確認ください。

工学  
研究科  
修士課程  
(一般・社会人)

工学  
研究科  
修士課程  
(外国人留学生)

社会環境学  
研究科  
修士課程  
(一般・社会人)

社会環境学  
研究科  
修士課程  
(外国人留学生)

工学  
研究科  
博士後期課程  
(一般・社会人)

工学  
研究科  
博士後期課程  
(外国人留学生)

共  
通  
事  
項

# 工学研究科博士後期課程《昼夜開講制》

## 1 入学定員

専攻名	定員
物質生産システム工学専攻	2名
知能情報システム工学専攻	2名

## 2 出願資格（入学資格）

### ●一般入試

- ① 学校教育法第104条第1項に定める修士の学位を有する者及び取得見込みの者
- ② 外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者
- ③ 文部科学大臣の指定した者
- ④ その他本学の大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者（短大等を卒業後4年以上又は大学等を卒業後2年以上、工学分野の研究に従事し、学術論文、特許等が修士論文に相当すると認められる者。事前（一次入試受験希望者は6月3日、二次入試受験希望者は11月11日まで）に問い合わせること。）

### ●社会人入試

- ① 上記出願資格のいずれかを満たし、2023年3月末において、企業等に正規の社員又は職員として勤務中の者で、勤務成績が優秀であると所属長が認め、在職のまま入学を希望する者。
- ② 上記出願資格のいずれかを満たし、社会における経験が豊富であり且つ勉学意欲に富む者。  
(例：退職者、自営業等)

なお、選考にあたっては、社会における経験、実績を評価に加味する。また、入学後の取り扱いとしては、学則に定められた教育課程に基づき、指導教員の下に修学（一年以上）と研究に専念するものとする。社会人入試については事前（一次入試受験希望者は6月3日、二次入試受験希望者は11月11日まで）に問い合わせること。

## 3 入学試験日程

入試種別	出願期間（必着）	試験日	合格発表日
一次 [一般入試、社会人入試 (昼夜開講制) 共通]	2022年9月1日(木) ～2022年9月9日(金)	2022年 10月1日(土)	2022年 10月28日(金)
二次 [一般入試、社会人入試 (昼夜開講制) 共通]	2023年1月13日(金) ～2023年1月20日(金)	2023年 2月17日(金)	2023年 3月4日(土)

ただし、専攻によっては二次の募集を行わないことがある。必ず事前に問い合わせること。

## (1) 提出書類

## ●一般入試

- |                  |  |
|------------------|--|
| ① 志願票(裏面履歴書)     | 本学所定のもの(様式A-1)                                     |
| ② 写真票・受験票・受験料納金票 | 本学所定のもの(様式B)                                       |
| ③ 修了(見込み)証明書     | 他大学出身者のみ   |
| ④ 成績証明書          | 他大学出身者のみ   |
| ⑤ 研究経過報告書        | 記入例を確認し、受験者本人が作成したもの(様式C-1)                        |
| ⑥ 志望理由書          | 本学所定のもの(様式D-1)                                     |
| ⑦ 研究業績           | 記入例を確認し、受験者本人が作成したもの(様式E-1)                        |
| ⑧ 大学院生受入承諾書      | 本学所定のもの(様式F-1)                                     |
| ⑨ 留学同意書          | 本学所定のもので、 <b>親権者</b> が記入・署名したもの(様式I)<br>(外国人留学生のみ) |

## ●社会人入試

- |                  |                             |
|------------------|-----------------------------|
| ① 志願票(裏面履歴書)     | 本学所定のもの(様式A-1)              |
| ② 写真票・受験票・受験料納金票 | 本学所定のもの(様式B)                |
| ③ 修了(見込み)証明書     | 他大学出身者のみ                    |
| ④ 成績証明書          | 他大学出身者のみ                    |
| ⑤ 志望理由書          | 本学所定のもの(様式D-1)              |
| ⑥ 研究業績           | 記入例を確認し、受験者本人が作成したもの(様式E-1) |
| ⑦ 大学院生受入承諾書      | 本学所定のもの(様式F-1)              |
| ⑧ 研究計画書及び履修計画書   | 本学所定のもの(様式G)                |
| ⑨ 受験許可・承諾書       | 本学所定のもの(様式H)                |

\* 修士の学位がない場合、③・④については事前(一次入試受験希望者は6月3日、二次入試受験希望者は11月11日まで)に問い合わせること。(他の提出書類により事前審査を行う場合があります)

(2) 受験料 **30,000円** (一旦納入した受験料は返却しない)

## (3) 出願要領

- ・ 窓口受付は平日9時より16時までとする。
- ・ 郵送の場合は、本学所定の入学願書用封筒に提出書類及び受験料(郵便局で為替にし、受け取り人欄は無記名)を同封して書留にて送付のこと。

(4) 願書提出先 **福岡工業大学 入試課**

〒811-0295 福岡市東区和白東3-30-1 ☎092-606-0634 (直)

※直接持参の場合は大学本部棟2階入試課へ(現金可)

## 5 選考方法

### (1) 試験科目、試験時間〔一般入試〕

外国語 英語 (60分) (専攻分野含む) (英和辞書貸与)  
9:00～10:00

志望目的等口頭発表 (プレゼンテーション)  
修士論文研究・研究計画 30分  
質疑応答 30分

面接 15分  
書類審査

### (2) 試験科目、試験時間〔社会人入試 (昼夜開講制)〕

外国語 英語 (60分) (専攻分野含む) (英和辞書貸与)  
9:00～10:00

志望目的等口頭発表 (プレゼンテーション)  
研究業績等報告・研究計画 30分  
質疑応答 30分

面接 15分  
書類審査

### (3) 試験集合場所 福岡工業大学

各専攻が指定した教室 (午前8時45分までに集合のこと)

## 6 合格発表

合格者受験番号をホームページ上で公開するとともに、文書で合格を通知する。

## 7 入学手続

一次入試合格者

入学手続書類提出・入学金納入期限	2022年12月9日(金)
前期授業料等納入期限	2023年3月9日(木)

二次入試合格者

入学手続書類提出・入学金、前期授業料等納入期限	2023年3月9日(木)
-------------------------	--------------

※提出・納入期限後はいかなる理由があっても受付をしないため注意すること。(P38参照)

## 8 学業特別奨学生

優秀な学生に授業料の半額を免除する制度があります。(P39参照)

# 工学研究科博士後期課程 外国人留学生入試要項

## 1 入学定員

専攻名	定員
物質生産システム工学専攻	若干名
知能情報システム工学専攻	若干名

## 2 出願資格（入学資格）

- ① 外国において、修士の学位又はそれに相当する学位を授与された者又は授与される見込みの者
  - ② 大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- \*ただし、日本の大学院を修了（見込み）した外国人留学生は、一般又は社会人入学試験を受験しなければならぬ。
- \*国費外国人留学生（研究留学生）の受け入れについては別に定める。

## 3 入学試験日程

入試種別	出願期間（必着）	試験日	合格発表日
一 次	2022年9月1日（木） ～2022年9月9日（金）	2022年 10月1日（土）	2022年 10月28日（金）
二 次	2023年1月13日（金） ～2023年1月20日（金）	2023年 2月17日（金）	2023年 3月4日（土）

ただし、専攻によっては二次の募集を行わないことがある。必ず事前に問い合わせること。

## 4 出願手続

### (1) 提出書類

- ① 志願票（裏面履歴書） 本学所定のもの（Form A-3）
- ② 写真票・受験票・受験料納金票 本学所定のもの（様式B）
- ③ 修了（見込み）証明書 出身大学長または学部長が作成したもの
- ④ 成績証明書 出身大学長または学部長が作成したもの
- ⑤ 研究経過報告書 記入例を確認し、受験者本人が作成したもの（Form C-2）
- ⑥ 志望理由書 本学所定のもの（Form D-2）
- ⑦ 研究業績 記入例を確認し、受験者本人が作成したもの（Form E-2）
- ⑧ 大学院生受入承諾書 本学所定のもの（Form F-2）
- ⑨ 留学同意書 本学所定のもので、**親権者**が記入・署名したもの（様式I）

### (2) 受験料 **30,000円**（一旦納入した受験料は返却しない）

### (3) 出願要領

- ・窓口受付は平日の9時より16時までとする。
- ・郵送の場合は、本学所定の入学願書用封筒に提出書類及び受験料（郵便局で為替にし、受け取り人欄は無記名）を同封して書留にて送付のこと。

- (4) **願書提出先** **福岡工業大学 入試課**  
〒 811-0295 福岡市東区和白東 3-30-1 ☎ 092-606-0634 (直)  
※直接持参の場合は大学本部棟 2 階入試課へ (現金可)

## 5 選考方法

- (1) **試験科目、試験時間**  
外国語 英語 (60 分) (専攻分野含む) (英和辞書貸与)  
9:00 ~ 10:00  
志望目的等口頭発表 (プレゼンテーション)  
修士論文研究・研究計画 30 分  
質疑応答 30 分  
面接 15 分  
書類審査

- (2) **試験集合場所** **福岡工業大学**  
各専攻が指定した教室 (午前 8 時 45 分までに集合のこと)

## 6 合格発表

合格者受験番号をホームページ上で公開するとともに、文書で合格を通知する。

## 7 入学手続

一次入試合格者

入学手続書類提出・入学金納入期限	<b>2022年12月9日(金)</b>
前期授業料等納入期限	<b>2023年3月9日(木)</b>

二次入試合格者

入学手続書類提出・入学金、前期授業料等納入期限	<b>2023年3月9日(木)</b>
-------------------------	---------------------

※提出・納入期限後はいかなる理由があっても受付をしないため注意すること。(P38 参照)

## ◆教育の目標

博士後期課程進学者は、本学及び他大学の修士課程修了者、社会人および外国人留学生が想定されるが、博士後期課程終了後の進路は外国人留学生を別にして産業界、官界における研究所の研究者、高度技術者としての職に就くものもあると予想される。本学に設置される博士後期課程は、主目的とした教育研究の後継者の育成にとどまらず、多様な分野および問題に適応し得る幅広い知識と柔軟な思考能力を持つ研究者、高度技術者の養成を目標とする。

本学の博士後期課程における各専攻の専修ごとの教育研究内容を要約すると次のようになる。

## ◆専攻名、入学定員及び専修部門

専攻名 (入学定員)	物質生産システム工学専攻 (2名)	知能情報システム工学専攻 (2名)
専修部門	電子物性工学専修 機能材料応用工学専修 エネルギーシステム工学専修 設計生産システム工学専修	知能情報工学専修 情報伝送工学専修 知的メディア工学専修 情報制御システム工学専修

## ◆各専攻及び各専修部門の特色

### (1) 物質生産システム工学専攻

#### 〈アドミッションポリシー〉

福岡工業大学の人材育成の目的は、“情報”・“環境”・“モノづくり”で象徴される科学技術分野の教育研究を通じて、優れた創造的能力とセンスで21世紀の社会・産業を支え、発展させることのできる人材を育てることです。この育成目的を踏まえ、物質生産システム工学専攻は、社会のインフラ整備、人間にとって有用なモノの製造とその技術など、工学の発展に貢献できる技術者・研究者を育成することを教育目的としています。

そのために、以下の事項について高い意欲のある学生の入学を期待します。

1. 自然科学および工学に関する基礎学力を有し、学ぼうとする専門領域の学力をさらに高める強い意欲を持つ者。
2. 工学についての国内外の情報を収集し、理解するために必要な英語力を有するとともに、さらにその力を高める意欲を持つ者。
3. 志望する専門領域で、基礎知識を踏まえて応用研究に取り組むこと、また問題の設定および問題解決の能力を高めることに強い意欲を持つ者。
4. コミュニケーションの能力を高め、人と協調して問題の解決に当たることのできる能力を身につける意欲を持つ者。

物質生産システム工学専攻は次の4専修から構成され、各専修とも教育・研究課程がバランスよく配置されている。

電子物性工学専修では、ナノフォトンクス・プラズモニクス技術に基づく新機能光デバイス、新しい光機能性を有する磁性材料、低次元ナノ材料の物性・機能と電子材料応用等に関する基礎的な領域の教育研究を行う。

機能材料応用工学専修では、希薄磁性半導体薄膜材料、高飽和磁化材料、高熱伝導体・強誘電性・透明導電性等の無機機能性材料の電気工学的応用、また、環境修復、バイオマスの存効活用等を目的とした環境科学、導伝子工学などに関連したテーマを設定して、これに必要な教育・研究を行う。

エネルギーシステム工学専修では、高密度なプラズマ・電子ビームなど良質な電気エネルギーから低密度な熱流体エネルギーまでのエネルギーの発生、返還、貯蔵、および運送に関する先端的諸問題の教育・研究を行う。

設計生産システム工学専修では、機械の高精度化、高寿命化などを目指して、機械設計及び精密加工分野における技術の開発・向上に関連するテーマを設定して、その基礎から応用まで理論と実験の両方から教育・研究を行う。

### ① 電子物性工学専修

科学の発達に伴う新素材の出現は、新たな機能を持つ電子デバイスや光デバイスの研究開発を促しているが、その基礎となる物性の理解は、更なる発展のために不可欠となっている。本分野では、急速に発展しつつある近年の電子デバイスや光デバイスの開発に寄与することを目的に、ナノフォトンクス・プラズモニクス技術に基づく新機能デバイス、新しい光機能性を有する磁性材料、低次元ナノ材料の物性・機能と電子材料応用等の分野に関する基礎的な領域の教育研究を行う。

### ② 機能材料応用工学専修

機能材料に関する基礎的研究や応用研究は、材料に要求される特性の多様化にともなって極めて広範にわたっており、学際的な研究分野の一つとなっている。本専修では、半導体や金属系磁性材料、無機機能性材料、生体物質など各種の材料に関する基礎及び応用理論を教授するとともに、磁性元素を加えたⅡ－Ⅳ化合物等の高性能磁性薄膜材料の光磁気応用、鉄－窒素系磁性薄膜の高飽和磁化材料の工学的応用、高熱伝導性・強誘電性・透明導電性等の無機機能性材料の新規開発と工学的応用などについて教育・研究を行う。また、ライフサイエンス分野で必要とされる生化学、有機化学、分子生物学、微生物学などを基礎として地球環境の保全と修復に関する教育・研究を通して、社会への貢献を目的とする。

### ③ エネルギーシステム工学専修

エネルギーの発生、変換、貯蔵及び輸送等を効率的に行う技術は高密度なプラズマ・電子ビームエネルギーから低密度な熱流体エネルギーまでエネルギー資源の有効利用のみならず、地球環境をも視野に入れたエネルギーシステムの考察が必要となっている。核融合発電等の新しい電気エネルギーの発生法や超伝導によるエネルギー貯蔵および電気エネルギー輸送技術、プラズマ現象解明のレーザー計測および種々の熱流体エネルギーシステムの先端的諸問題、電気エネルギーの形態を効率的に変換するパワーエレクトロニクス技術を取り扱い、教育・研究を行う。同時にこれらの技術に堪能な研究者・技術者の育成をし、産業社会への貢献を図るものである。

### ④ 設計生産システム工学専修

機械や構造物の高性能化、高精度化、寿命向上を目指した設計において、機能材料の各種環境中での動的強度やトライボロジー特性がますます需要となっている状況を鑑み、材料強度やトライボロジー分野の諸問題を教授するとともに、それに関連する重要なテーマを設定して研究を行う。又、機械加工の高精度化や自動化を可能にする高度な機械加工技術がますます要求される将来に対応して、精密塑性加工や接合技術、高精度化の可能な切削工具や金型技術などに代表される機械加工の高速自動化、レーザや超音波を用いた精密加工・評価技術などに関して教授し、それらに関連するテーマを設定して研究を行う。

機械設計および精密加工分野における技術の向上を目指した教育・研究に関連して、その基礎から応用まで理論と実験の両面から教育・研究課程がバランスよく配置されている。

## (2) 知能情報システム工学専攻

### 〈アドミッションポリシー〉

福岡工業大学の人材育成の目的は、“情報”・“環境”・“モノづくり”で象徴される科学技術分野の教育研究を通じて、優れた創造的能力とセンスで21世紀の社会・産業を支え、発展させることのできる人材を育てることです。この育成目的を踏まえ、知能情報システム工学専攻は、社会のインフラ整備、人間にとって有用なモノの製造と技術、革新的なコンピュータや情報システムの構築とその技術など、情報工学分野の発展に貢献できる技術者・研究者を育成することを教育目的としています。

そのために、以下の事項について高い意欲のある学生の入学を期待します。

1. 自然科学および情報工学に関する基礎学力を有し、学ぼうとする専門領域の学力をさらに高める強い意欲を持つ者。
2. 情報工学についての国内外の情報を収集し、理解するために必要な英語力を有するとともに、さらにその力を高める意欲を持つ者。
3. 志望する専門領域で、基礎知識を踏まえて応用研究に取り組むこと、また問題の設定および問題解決の能力を高めることに強い意欲を持つ者。
4. コミュニケーションの能力を高め、人と協調して問題の解決に当たることのできる能力を身につける意欲を持つ者。

この専攻は、知能情報工学、情報伝送工学、知的メディア工学及び情報制御システム工学の4専攻で構成され、21世紀の高度情報化社会を情報技術の側面から支えていく研究者、技術者を養成する。特に人間社会と係わりの深い分野において、コンピュータを知的に利用する新しい情報技術の開発に主眼を置き、そのための基礎理論と応用技術について教授する。

知能情報工学専攻では、マルチメディア対応の人工知能等の研究を行い、人間と融和するマルチメディアの開発を目指して、その知能化に関する基礎理論と応用技術について教育・研究を行う。

情報伝送工学専攻では、情報通信技術の多様化とモバイル化に向けて、ネットワークの知的制御や電波伝搬推定に関する研究を行い、ネットワーク資源と無線メディアの有効利用に関する教育・研究を行う。

知的メディア工学専攻では、多様な情報メディアを統合的にデータベース化し、メディア情報の処理に関して、インターフェースの開発と問題解決に向けた各種計算理論の応用技術についての教育・研究を行う。

情報制御システム工学専攻では、人間社会の全てをシステムとして捉え、各種システムのモデル構築とその評価法、並びにシステムの同定・制御に関する諸技術について教育・研究を行う。

#### ① 知能情報工学専攻

インターネットの整備拡充の進展及びパーソナルコンピュータの高性能化によってマルチメディアが一般社会に浸透しつつある。それに伴い、操作しやすいコンピュータ、人にやさしいコンピュータ、高セキュリティのコンピュータの実現がますます重要になってくる。人工知能の基礎から応用に関する幅広い教育・研究を行うことにより、このようなニーズに知能情報工学の立場からアプローチし、マルチメディアの知能化に貢献できる研究者・高度技術者の育成を目指す。

#### ② 情報伝送工学専攻

携帯電話やインターネットの普及は目覚ましく、その利用者の増大と共に新たな情報通信技術の展開が求められている。この専攻では、ネットワークの物理層からネットワーク層さらにはアプリケーション層にまたがる幅広いネットワークの基礎技術を習得し、新たな情報通信技術の革新と国際化に対応できる技術者・研究者の育成を目指している。物理層関連では、主として無線ネットワークに必要不可欠な電磁波工学の基礎と応用を学び、無線周波数の有効利用に資する。またネットワーク層とアプリケーション層では、種々のネットワーク資源を有効に利用する技術と技法を学び、近未来社会におけるネットワークの多様化に資する。

#### ③ 知的メディア工学専攻

文章や図形などの人為的表現のみならず、脳波などの生体信号なども広義にメディアと見なし、人間工学や認知科学的観点から効率的なマン・マシン・インターフェイスを開発し、それらのメディアを総合的にデータベースとして蓄積・管理し、言語工学や記号論理学に基づく厳密な計算 (rigid computing) およびファジィ理論やニュートラルネットワーク理論に基づく柔軟な計算 (soft computing) の両方により問題解決を行うための技術に関する教育・研究を目的としている。

#### ④ 情報制御システム工学専攻

人間社会が関わるあらゆるものをシステムとしてとらえて、種々の情報を有効に利用してシステムの解析・設計・評価を行うことで、初期の目的を達成させる考え方や技術は複雑化する情報社会では不可欠となっている。このような要請に対し高度な情報技術を有し、かつ対象システムの解析・設計・制御および構築の手法・技術を身につけ、情報制御システムに関する総合技術と幅広い高度な知識・判断力を持った情報制御システム技術者・研究者の育成を目指すものである。対象とするシステムとしては、ネットワークコミュニティシステム、生体システムなど幅広いシステムを扱い、インターネットを利用したコミュニティにおける情報流通制御、脳波などの生体信号の特徴抽出とそれによる自動診断についての教育・研究を行う。

## ◆各授業科目の講義等の内容

### 1. 物質生産システム工学専攻

#### (1) 電子物性工学専修

授業科目名 ----- 担当教員名	講 義 等 の 内 容
電子物性工学 特別研究 ----- 教授 博士(理学) 北川 二郎 准教授 博士(工学) 鈴木 恭一	科学の発展に伴う新素材の出現は、新たな電子デバイスや光デバイスの研究開発を促しているが、その基礎となる物性の理解は、更なる発展のために不可欠となっている。本特別研究では、これらの発展に寄与することを目的に、ナノフォトニクス・プラズモニクス技術に基づく新機能デバイス、新しい磁性・超伝導材料の開発、低次元ナノ材料の物性・機能と電子材料応用、半導体やトポロジカル絶縁体に現れる量子効果等に関するテーマを設定し、これに必要な教育・研究を行う。
電子物性工学 特別演習Ⅰ ----- 教授 博士(工学) 片山 龍一	ナノフォトニクス・プラズモニクス技術は、波長以下の微細構造を有する光学素子により、従来の光学素子では実現できない新機能（光の速さを極めて遅くする、光を波長よりも小さい領域に局在させる、光を一方向のみに伝搬させる、光に障害物を迂回させる等）を実現する分野である。応用としては超低消費電力レーザー、超低損失光ファイバー、超高感度センサー等が挙げられる。本科目では上記技術について、適切な教科書や論文の購読により理解を深める。
電子物性工学 特別演習Ⅱ ----- 教授 博士(理学) 北川 二郎	磁性・超伝導材料は現代社会を支える重要な機能性材料であるが、新しい材料や高機能材料の開発は更なる技術革新につながる。 特に固体化学に基づいた材料開発は、極めて大きな可能性を秘めている。本特別演習では、最先端の磁性・超伝導材料の理解に必要な磁性や固体化学の知識を、教科書の輪講により深める。
電子物性工学 特別演習Ⅲ ----- 教授 博士(理学) 前田 文彦	ナノ材料は、ナノメートルサイズという大きさに起因して特異な物性を示す。これに加えて物質の次元性も物性を支配しており、これらの組み合わせによってバルクの物性からは予測も付かない優れた特性を示す新素材が生み出されてきた。本演習では、このような新素材の物性出現の起源を理解するため、固体物理学とナノ材料に関連する量子力学に関する教科書を活用し、輪講によって知識の習得を図る。
電子物性工学 特別演習Ⅳ ----- 准教授 博士(工学) 鈴木 恭一	高度な微細化・集積化に伴い、現代の半導体デバイスでは、荷電粒子の持つ量子力学的性質である波動性がデバイス特性に与える影響が無視できなくなっている。さらに、この波動性を利用した、新機能デバイスの開発も盛んに行われている。本科目では、新機能デバイスの開発に必要な半導体中に現れる量子力学的現象について、教科書および転機となった論文の輪講を行い、知識を深める。

## (2) 機能材料応用工学専修

授業科目名	講義等の内容
機能材料応用工学特別研究 担当教員名	
機能材料応用工学特別研究 教授 博士(理学) 蒲池 高志 教授 Ph.D. 北山 幹人 教授 博士(工学) 呉 行正 教授 博士(理学) 三田 肇 准教授 博士(工学) 宮元 展義	現在、様々な機能をもった新しい材料が次々に開発され、多くの産業の発展を支えている。本特別研究では、このような新しい材料の工学的応用に関する高度な知識と技術を教授することを目的に、磁性元素を加えたⅡ - Ⅳ化合物等の希薄磁性半導体薄膜材料や鉄・窒素系磁性薄膜等の高飽和磁化材料の電気工学的応用、酵素タンパク質等の生体物質を用いたバイオセンサーの開発とその化学工学的応用などに関連したテーマを設定し、これに必要な教育・研究を行う。
機能材料応用工学 特別演習Ⅰ 准教授 博士(工学) 宮元 展義	ナノ構造を持つ無機物質や精密構造を持つ高分子に関する最新の研究動向や、物性・構造評価のための手法と基礎原理を学ぶ。
機能材料応用工学 特別演習Ⅱ 教授 博士(工学) 呉 行正	キャピラリー電気泳動法および光を利用する環境・生体試料の新規簡易分析法の開発研究を通して、教育・演習を行う。
機能材料応用工学 特別演習Ⅲ 教授 博士(理学) 三田 肇	生体関連有機物の環境中での合成と分解の解析と、その材料工学への応用について教育・演習を行う。
機能材料応用工学 特別演習Ⅳ 教授 博士(理学) 蒲池 高志	計算化学に基づいた計算機シミュレーションを利用した固体触媒反応、有機触媒反応、生体触媒反応の解析と設計に関する教育・演習を行う。
機能材料応用工学 特別演習Ⅴ 教授 Ph.D. 北山 幹人	新規な機能を有する無機固体材料、例えば、パワーデバイス向けの高熱伝導窒化ケイ素セラミックスの開発、新規な炭化ケイ素セラミックス接合技術の開発、ナノ結晶分散ガラスの開発、可視光による水の光電気化学分解に関する研究、固体触媒としてゼオライトを用いた促進酸化処理に関する研究などに関する教育・演習を行なう。

## (3) エネルギーシステム工学専修

授業科目名	講義等の内容
エネルギーシステム工学 特別研究 担当教員名	
エネルギーシステム工学 特別研究 教授 博士(工学) 井上 昌睦 教授 博士(工学) 江頭 竜 教授 博士(工学) 江口 啓 教授 博士(工学) 大山 和宏 教授 博士(工学) 田島 大輔 教授 博士(工学) 倪 宝栄 教授 博士(工学) 村山 理一	エネルギーの発生、変換、貯蔵及び輸送等を効率的に行う技術は高密度なプラズマ・電子ビームエネルギーから低密度な熱流体エネルギーまでエネルギー資源の有効利用のみならず、地球環境をも視野に入れたエネルギーシステムの考察が必要となっている。核融合発電等の新しい電気エネルギーの発生法や超伝導によるエネルギー貯蔵および電気エネルギー輸送技術、プラズマ現象解明のレーザー計測および種々の熱流体エネルギーシステムの先端的諸問題、電気エネルギーの形態を効率的に変換するパワーエレクトロニクス技術を取り扱い、教育・研究を行う。

工学  
研究  
科  
修  
士  
課  
程  
(一般・社会人)

工学  
研究  
科  
修  
士  
課  
程  
(外国人留学生)

社会  
環  
境  
学  
研  
究  
科  
修  
士  
課  
程  
(一般・社会人)

社会  
環  
境  
学  
研  
究  
科  
修  
士  
課  
程  
(外国人留学生)

工学  
研究  
科  
博  
士  
後  
期  
課  
程  
(一般・社会人)

工学  
研究  
科  
博  
士  
後  
期  
課  
程  
(外国人留学生)

共  
通  
事  
項

授業科目名	講義等の内容
担当教員名	
エネルギーシステム工学 特別演習Ⅰ 教授 博士(工学) 村山 理一	エネルギーの主要発生源である各種電力発電所、エネルギー貯蔵タンク、エネルギー輸送用パイプラインの安全性確保は産業の基幹をなす重要課題であり、非破壊的に、正確に、精密にこれらの構造物の診断をおこなうことを強く求められている。この課題に対し、超音波や電磁波を使って評価するシステムについて教育・演習を行う。
エネルギーシステム工学 特別演習Ⅱ 教授 博士(工学) 江口 啓	電子機器においては入力電圧の変動や、出力側で要求される電圧が変化する場合があるため、出力電圧を安定に制御する電源回路が必要不可欠である。特に、電子機器の省エネルギー化が求められる現代においては、高効率の電源回路を設計することが重要な課題である。本特別演習においては、最も一般的に用いられているスイッチング電源回路の設計方法について教育・演習を行う。
エネルギーシステム工学 特別演習Ⅲ 教授 博士(工学) 倪 宝栄	将来の電気エネルギー供給システムにおいて、超伝導線材や超伝導機器の応用が非常に重要な役割を果たすと考えられている。本特別演習において、超伝導材料の応用に最も重要な要素の一つである臨界電流特性に関する基礎的及び工学的研究について教育・演習を行う。
エネルギーシステム工学 特別演習Ⅳ 教授 博士(工学) 大山 和宏	電気エネルギーの発生、変換、貯蔵および輸送など高効率化とエネルギーの良質化に対して、電気エネルギーの制御を可能とするパワーエレクトロニクス技術は不可欠である。本特別演習では、実用化されているエネルギーシステムを例として、それに応用されているパワーエレクトロニクス技術について教育・演習を行う。
エネルギーシステム工学 特別演習Ⅴ 教授 博士(工学) 江頭 竜	電気エネルギー供給のための発電所や工業用熱エネルギー供給設備などでは、熱と仕事を交換する媒体として流体がよく用いられる。したがって、エネルギー分野における問題は熱力学や流体力学に密接に関係していることが多い。特に、エネルギーシステムでは、液体から気体へ、気体から液体へとといった相変化や、液体と気体が共存する気液二相流が重要な役割を演じるため、本特別演習ではこれらの諸性質について教育・演習を行う。
エネルギーシステム工学 特別演習Ⅵ 教授 博士(工学) 田島 大輔	電気エネルギーの貯蔵には物理現象を利用したキャパシタや化学現象を利用した電池があり、それらの電極活物質の種類や電解質によって、取り出せる電力が異なる。本特別演習では、電極活物質と電解質との組み合わせにより得られる理論容量の解析を行い、材料設計から蓄電システム化するまでの技術について教育・演習を行う。
エネルギーシステム工学 特別演習Ⅶ 教授 博士(工学) 井上 昌睦	電気エネルギーの輸送に用いられる電線や電力ケーブルは、一種の一次元材料であり、局所的な欠陥構造がシステム全体に影響を与える。本特別演習においては、各種線材を対象に局所欠陥が線材の電氣的性能に与える影響を実験的及び解析的に解明する評価技術について教育・演習を行う。

#### (4) 設計生産システム工学専修

授業科目名	講義等の内容
設計生産システム工学 特別研究 教授 工学博士 朱 世杰 教授 博士(工学) 数仲 馬恋典 教授 博士(工学) 廣田 健治 准教授 博士(工学) 加藤 友規	機械およびその加工の高精度化、自動化を可能にする高度な機械設計技術および加工技術の重要性と発展が益々要求されており、本特別研究では機械設計および精密加工分野における技術の向上を目指したテーマを設定して、これに必要な教育・研究を行う。
設計生産システム工学 特別演習Ⅲ 教授 工学博士 朱 世杰	機械や構造物の軽量化、長寿命化、安全性を目指した機械設計は非常に重要であるため、ここでは各種環境中における材料の動的強度やトライボロジー特性に関する諸問題を取り上げて、これを種々の観点から評価・検討し、上記目的にかなう合理的な機械設計の考え方および手法について教育・演習を行う。
設計生産システム工学 特別演習Ⅴ 准教授 博士(工学) 加藤 友規	超精密工作機械を構成する機械要素の中には、空気ばね式除振台・静圧空気軸受式エアタービンスピンドル・電空ハイブリッド鉛直超精密位置決めステージなど、フルードパワー（油圧・空気圧・液圧・機能性流体など）により駆動されるものが数多く存在する。また近年、介護・医療機器などにソフトアクチュエータが使用される例が見られるが、それらの多くもフルードパワーにより駆動されている。本講義では、フルードパワーシステムの基礎をベースに、特に計測・制御技術に関する実践的な技術者の育成を目指した教育・演習を行う。
設計生産システム工学 特別演習Ⅵ 教授 博士(工学) 数仲 馬恋典	環境に優しい次世代の乗り物や環境汚染源とならないエネルギー（電力）産出といった地球環境において重要となってきた教育を目指す。具体的には、ハイブリッド車両、電気車両、水素エンジン、油の代わりに水と多孔質人工砂を用いたコロイダル懸架装置、燃費を改善する非空気圧タイヤ、圧電素子・風力・水力・波力・地熱・太陽風を用いた発電システムの設計法、つめり、機械・電気・流体・熱などの学際的な知識を組み合わせた設計法に関してテーマを決定して、とくに複雑なシステムにおいて設計能力を身につけた次世代を担う設計者の育成を考慮に入れた教育・演習を行う。
設計生産システム工学 特別演習Ⅶ 教授 博士(工学) 廣田 健治	金型を用いた成形加工は工業製品を効率的かつ低コストで生産するための基盤技術である。特に金属の成形では、難加工材の成形や微細部品の精密成形など従来技術では対応できない要求が年々増えている。このような課題に対して、材料の変形特性を理解し実験および数値解析の両面からその解決策を見いだす手法を学ばせるとともに、工程数、成形荷重、要求精度など実生産の視点に基づいた評価を行えるような教育・演習を行う。

工学研究科修士課程  
(一般・社会人)

工学研究科修士課程  
(外国人留学生)

社会環境学研究科修士課程  
(一般・社会人)

社会環境学研究科修士課程  
(外国人留学生)

工学研究科博士後期課程  
(一般・社会人)

工学研究科博士後期課程  
(外国人留学生)

共通事項

## 2. 知能情報システム工学専攻

### (1) 知能情報工学専修

授業科目名	講義等の内容
担当教員名	
知能情報工学特別研究 教授 博士(情報学) 種田 和正 教授 博士(工学) 山内 寛行 教授 博士(工学) 福本 誠 教授 博士(工学) 前田 道治	本特別研究では、知的探索や知識モデリングなどの人工知能の基礎分野から、ニューラルネットワークによる画像認識や画像圧縮などの応用分野に至るまで、知能情報工学に関連する幅広い分野の中から研究テーマを設定し、それに必要な教育と研究を行う。
知能情報工学特別演習Ⅰ 教授 博士(工学) 前田 道治	次世代のコンピュータに関連して、ナチュラルコンピューティングとしての計算知能や情報数理の研究が盛んに行われている。本特別演習では、進化的計算、群知能、ニューラルネットワーク、ファジィシステム、量子コンピュータ科学、DNAコンピューティング、ネットワーク科学について教育と演習を行う。
知能情報工学特別演習Ⅱ 教授 博士(工学) 福本 誠	メディアコンテンツや製品に個々のユーザの好みや感性を反映することは、工学分野の重要な課題である。しかし、こういった人間要素を扱う問題は、コンピュータ上の計算のみでは解決が難しい。この問題を解決する手法として、ユーザごとの感性に合うメディアコンテンツを探索する進化計算・対話型進化計算について、プログラミングを通じた教育と演習を行う。
知能情報工学特別演習Ⅲ 教授 博士(工学) 山内 寛行	コンピュータがAI機能を持ち、賢い動きをするかどうかは、コンピュータが限られたエネルギーで如何に学習できるようになっているかに依存する。又、AIがどこにでも潜在するようになるには、コンピュータが大型専用機から腕時計型まで展開されたように、AIもクラウドからセンサー内蔵までシームレスに許容される高いエネルギー効率で実現される必要がある。本特別研究では、AI-Everywhere (どこでもAI) の実現に向けた計算エネルギー効率の高い機械学習モデルのアーキテクチャー、アルゴリズムの教育と演習を行う。
知能情報工学特別演習Ⅳ 教授 博士(情報学) 種田 和正	Web API を利用した新しいサービス（ソーシャルネットワークやブロックチェーン等）がインターネット上で利用されている。これらのサービスは新たなセキュリティ課題を提示している。本特別演習では、最新の Web サービス技術を理解し、そのモデル化とセキュリティ対策に関する講義と演習を行う。

## (2) 情報伝送工学専修

授業科目名	講義等の内容
担当教員名 情報伝送工学特別研究 教授 博士(ソフトウェア情報学) 石田 智行 教授 博士(ソフトウェア情報学) 内田 法彦 教授 博士(ソフトウェア情報学) 杉田 薫 教授 博士(工学) 中嶋 徳正 教授 博士(工学) パトリシオナルド 教授 博士(工学) 前田 洋 教授 博士(工学) 松尾 慶太 准教授 博士(工学) 池田 誠	有線と無線を問わず、情報通信ネットワークの進展には著しいものがある。このような状況下で、無線周波数の有効利用や種々のネットワーク資源を有効に利用する技術の革新に対応でき、さらに国際性豊かな技術者・研究者の育成が強く求められる。この特別研究では、これらに関連したテーマを設定して必要な教育・研究を行う。
情報伝送工学特別演習Ⅰ 教授 博士(工学) 前田 洋	複雑な環境下での電磁波伝搬特性、各種伝送媒体における電磁波・光の伝送特性を解明するには、基礎となる電磁界理論を理解し、また種々の電磁界解析法を習得する必要がある。特に最近のコンピュータ技術の進歩により、時間領域における電磁界の直接解法が有用となっている。本特別演習では、電磁界理論と電磁界解析のためのコンピュータ・シミュレーションに関する教育・演習を行う。
情報伝送工学特別演習Ⅱ 准教授 博士(工学) 池田 誠	最近、多種多様なデバイスから情報を有線・無線通信により伝送する技術、収集した情報を活用する応用技術が盛んに研究されている。本特別演習では、これらの技術に不可欠な無線通信の中のアドホック通信に焦点を当て、Linuxを用いた通信システムの開発手法、通信システムの性能評価手法について教育と演習を行う。
情報伝送工学特別演習Ⅲ 教授 博士(工学) パトリシオナルド	最近、情報通信ネットワーク分野は急速に進展してきている。そして異なる特徴を持つ異なる種類のネットワークがヘテロジニアスネットワークとして統合されている。このようなネットワークでは、増加するユーザーへの対応、多数の異なるサービスのサポート、通信品質(QoS)の保証、ネットワーク資源の有効利用をサポートすることが重要である。そのため、ネットワークのトラフィック制御にはさらに知的な制御が必要となってきている。本特別演習では、ファジィ制御、遺伝的アルゴリズム、ニューラルネットワークなどの知的制御を理解する。高速ネットワーク、無線ネットワーク、アドホックネットワーク、ファジィ論理、遺伝的アルゴリズム、ニューラルネットワーク、知的エージェントについて教育と演習を行う。
情報伝送工学特別演習Ⅳ 教授 博士(工学) 中嶋 徳正	無線電力伝送や電磁波エネルギー・ハーベスティングは機器や装置に対して時間や場所を問わずに電力が供給できる技術としてその高性能化に向けた研究が活発に行われている。本特別演習では、これらの技術の発展の基礎となる回路理論ならびに電磁界理論について教育と演習を行う。
情報伝送工学特別演習Ⅴ 教授 博士(ソフトウェア情報学) 杉田 薫	現実の環境下でマルチメディア通信を実現するためには、ネットワークの通信帯域による情報伝送能力とコンピュータの性能によるグラフィック表示能力に限界があるため、利用者の要求を考慮してベストエフォート型のサービスとしてマルチメディア情報を構成する各メディアの品質を制御する必要がある。本特別演習では、これらの要素技術に関する教育・演習を行う。

工学研究科修士課程  
(一般・社会人)

工学研究科修士課程  
(外国人留学生)

社会環境学研究科修士課程  
(一般・社会人)

社会環境学研究科修士課程  
(外国人留学生)

工学研究科博士後期課程  
(一般・社会人)

工学研究科博士後期課程  
(外国人留学生)

共通事項

授業科目名	講義等の内容
担当教員名	
情報伝送工学特別演習 V 教授 博士(ソフトウェア情報学) 石田 智行	近年のネットワークの高速化やスマートフォンの急速な普及により、我々の生活は大きく変化しており、その中でも人工現実技術 (Virtual Reality : VR) や拡張現実技術 (Augmented Reality : AR) が身近なものとなっている。また、安価なヘッドマウントディスプレイ (Head Mounted Display : HMD) の普及により、複合現実 (Mixed Reality : MR) 技術が注目を集めている。本特別演習では、VR/AR/MR 技術の基礎理論と応用、最新技術を系統的に学び、その技術が我々の生活にどう入り込んでいるのか、そして、未来の可能性について教育と演習を行う。
情報伝送工学特別演習 VI 教授 博士(ソフトウェア情報学) 内田 法彦	近年、我々の通信環境は著しい発展を遂げ、時間と場所を超越したブロードバンド通信環境を実現したが、災害時や無線周波数特性による接続性等、様々な問題も指摘されている。本特別演習では、主に災害時等の劣悪な環境を想定したレジリエントネットワーク、有線と無線環境を複合した異種間ネットワーク、車両等の高速移動ノード間通信法等について、問題点を探究し、環境電磁工学、情報通信工学的視点から新たな通信法をデザイン、構築、評価する手法について教育と演習を行う。
情報伝送工学特別演習 VII 教授 博士(工学) 松尾 慶太	IoT とロボット技術に基づいたロボット間知識共有システムやインターネットを介しない近距離通信の応用に関する教育と演習を行う。

### (3) 知的メディア工学専修

授業科目名	講義等の内容
担当教員名	
知的メディア工学 特別研究 教授 博士(工学) 近木 祐一郎 教授 経済学博士 宋 宇 教授 博士(工学) 藤岡 寛之 教授 博士(工学) 盧 存偉 教授 博士(工学) 田嶋 拓也	広義のメディアの蓄積・管理・認識・理解・生成技術に関して教育・研究を行う。
知的メディア工学 特別演習 II 教授 博士(工学) 藤岡 寛之	スプライン関数はCG、CAD、数値解析やロボティクスといった幅広い分野で用いられている実用的な関数である。本特別演習では、数理的なアプローチによりスプライン曲線・曲面を最適に設計する技術について教育・演習を行う。
知的メディア工学 特別演習 III 教授 経済学博士 宋 宇	企業内外に生ずる膨大で多様なデータ (ビッグデータ) を管理、解析、活用する技術について教育・演習を行う。
知的メディア工学 特別演習 IV 教授 博士(工学) 盧 存偉	三次元画像計測と画像計測制御、人工知能に基づく実用型画像計測システムの開発について教育・演習を行う。

授業科目名	講義等の内容
担当教員名	
知的メディア工学 特別演習Ⅵ	工学的アプローチからの経営システム分析とセンサ応用、統計解析、人工知能などの技術を用いた問題解決についての教育と研究を行う。
教授 博士(工学) 田嶋 拓也	
知的メディア工学 特別演習Ⅶ	レーダ画像の信号処理による超高解像度化技術、ボケ補正技術、物体認識技術についての教育と研究を行う。
教授 博士(工学) 近木 祐一郎	

#### (4) 情報制御システム工学専修

授業科目名	講義等の内容
担当教員名	
情報制御システム工学 特別研究	本特別研究では、脳波や筋電などの生体信号処理に基づくシステム開発・人工関節や再生医療、手術や診断のコンピュータ支援に関連する生体医工学の応用技術に関するテーマを設定し、これらに必要な教育と研究を行う。
教授 博士(情報工学) 徳安 達士 准教授 博士(工学) 下戸 健	
情報制御システム工学 特別演習Ⅰ	計算医工学における生体変形や血管内の血液の流れを対象として、有限要素法や粒子法を用いた数値計算およびシミュレーションの教育・演習を行う。
教授 博士(工学) 利光 和彦	
情報制御システム工学 特別演習Ⅲ	画像診断における医師の暗黙知やアスリートの身体運動など、高度に自動化された技術を定量的に評価するための情報技術について教育・演習を行う。
教授 博士(情報工学) 徳安 達士	
情報制御システム工学 特別演習Ⅳ	人工関節といった臨床で実際に用いられている臨床材料や、細胞、骨および組織といった生体を対象に、実験のおよび解析的に機能を評価するために、工学的アプローチとして重要なトライボ実験やコンピュータシミュレーション方法について教育・演習を行う。
准教授 博士(工学) 下戸 健	

工学研究科修士課程  
(一般・社会人)

工学研究科修士課程  
(外国人留学生)

社会環境学研究科修士課程  
(一般・社会人)

社会環境学研究科修士課程  
(外国人留学生)

工学研究科博士後期課程  
(一般・社会人)

工学研究科博士後期課程  
(外国人留学生)

共通事項

# 教育方法及び実施体制

## (1) 履修

### 【修士課程】

工学研究科を修了するためには、特別研究（修士論文 12 単位）を含め 36 単位を取得しなければならない。各専攻の専門教育は、授業科目を 1～4 の分野に区分している。この区分を専修区分という。学生は一つの区分を専修して、履修要項の定めに従って履修登録することになる。各専攻の共通科目には、工学基礎の学習のために「数学」及び「物理学」。また、世界に雄飛する技術者、研究者を育成するために「基礎英語」「応用英語」「英語論文作成特別演習」「国際学会等発表特別演習」および「技術者倫理特論」の 5 科目を開講している。さらに、修士課程の質的向上と研究活動に必要な論理的思考力の習得に主眼を置いた「論理的思考特論 A（読解力）」「論理的思考特論 B（文章力）」「論理的思考特論 C（表現力）」および、留学生のみを対象とした「ビジネス日本語」の 4 科目を開講している。

社会環境学研究科を修了するためには、社会環境特別演習（修士論文）又は課題研究（いずれも 8 単位）を含め 30 単位を取得しなければならない。ただし、課題研究を履修できる者は、研究テーマを持った社会人入学者となっている。学生は、基礎科目（必修）および専門科目から履修要項の定めに従って履修登録することになる。

### 【博士後期課程】

工学研究科博士後期課程を修了するためには、特別研究（博士論文 18 単位）および特別演習 4 単位以上の合計 22 単位以上を修得しなければならない。2 専攻共に 4 つの分野に区分している。この区分を専修部門という。学生は、一つの専修部門に所属して、履修要項の定めに従って履修登録することになる。

## (2) 中間発表

### 【修士課程】

工学研究科および社会環境学研究科の学生は、作成中の修士論文又は課題研究の進捗度を公開して、所属専攻の複数の教員から必要な研究指導を受ける。中間発表は、2 年次の 11 月末までに専攻毎に実施される。中間発表をしなかった学生は、修士論文を提出できない。

### 【博士後期課程】

工学研究科の学生は、作成中の博士論文の進捗度を公開して、所属専攻の複数の教員から必要な研究指導を受ける。2 年次の中間発表は 9 月末までに実施し、3 年次の中間発表は博士論文の予備審査に振り替えることができる。

## (3) 学会発表（工学研究科）

学生の研究活動の活発化と学会発表を促進するために旅費・宿泊費等の手厚い補助制度を設けている。

### 【修士課程】

学生は、原則として在学期間中に研究成果を学術論文の公表や口頭発表など、いずれかの方法で公表しなければならない。これまで殆どの学生が、在学期間中に 1 回以上の学会発表を行っており、国際学会で発表の学生も増加している。

### 【博士後期課程】

学生は、学位を取得するために専修部門の学会に所属することが望ましい。また、国内外で開催される学会で発表しなければならない。

## (4) 学位授与

【修士課程】 修士論文の審査及び最終試験に合格した学生には学位記を授与する。

【博士後期課程】 博士論文の審査及び最終試験に合格した学生には学位記を授与する。

## (5) 教育改善

本学では、FD 推進機構大学院部会を組織して、修士課程の教育改善のために毎年度、授業アンケート（前・後期）および修士論文アンケート、2 年毎に教育改善アンケートを実施している。アンケートの結果は、各教員にフィードバックして、WEB 上で公開している。一方で、博士後期課程の学生は本学の教職員が教育改善のための意見交換の場として定期開催している FD に関するセミナーに参加する。これにより主体的な学びを促進するための学生指導法や教材の作成・活用方法等、将来の学識教授に求められる能力の強化を図る。

## (6) 経済的支援

【修士課程】 学業特別奨学生制度を設け、授業料の半額を免除している。

【博士後期課程】 在籍する学生全員に対して、授業料の半額を免除している。

# 昼夜開講制

教育方法の特例（大学院設置基準第14条）による修士課程・博士後期課程での教育

## (1) 設置の趣旨及び特に必要とする理由

最近の科学技術の進歩は著しく、常に学習しそれに対応しなければならず、生涯教育の必要性が話題になってきている。我が国の社会構造も終身雇用制ではこれからの新しい国際化に対応しきれなくなり、年功序列制から能力主義へと脱皮していかなければならない。そこでは高度の科学技術者としてスペシャリストが要求される。

本学では、1998年度から大学院修士課程に、1999年度からは博士後期課程に昼夜開講制を採用し、平日の18:30～20:00および土曜日の9:00～17:00に授業を開講することにしたが、これまでに20人の社会人学生が入学している。問題意識を持って入学しており、社会人としての経験を生かし、一般の学生に対しても刺激を与え、この制度が非常に有効に生かされている。

本学は地理的にJR福工大前駅に隣接しており、北九州、久留米、大牟田及び佐賀地区から1時間程度で通学可能である。これまで福岡を中心としたこれらの地区で工学系大学院修士課程において、本格的な昼夜開講制を実施した大学は皆無であり本学が先鞭をつけたといっても過言ではない。本学はこのように、地理的な有利性を有するのみならず、社会人学生に対してきめ細かい配慮を行っており、特に教育研究指導の面で優れた特徴を有するよう、授業科目の履修と実施について工夫を行っている。大学院博士後期課程においても勿論この経験は生かされるが、特色のある教育・研究指導の実施体制の充実をはかりたい。

## (2) 博士後期課程での履修指導及び研究指導の方法

組織とその構成および教育の目標については一般学生と同様であるので省略するが、教育方法及び実施体制について相違点を明らかにしながら説明する。

1年次においては、社会人学生として本大学院の修士課程を修了した学生にあっては、すでに指導教員との間に修士論文の作成において博士後期課程における教育研究を視野に入れて指導しているので問題はないが、新しく大学院博士後期課程に入学する学生にとっては、学位論文のテーマの設定が一番難しく重要な課題となる。他大学院修士課程における修士論文のテーマ、企業における研究テーマ、学会発表した研究内容、およびすでに論文発表を行っている場合はその課題内容等を考慮し、指導教員の研究分野との接点を探し、学位論文のテーマをつめて行かなければならない。その際企業から派遣されている場合は、企業側で要求されているテーマがある場合もあるので総合的判断のもとに絞り込んでいかなければならない。

研究活動としては、研究内容が少なくとも学会に発表できるように指導することはいうまでもないが、電子メールを利用して研究指導を行い、指導教員との接触の少ない分を補うようにする。学位論文や学会への投稿原稿なども電子メールを有効に利用して行う。

2年次における、特別研究の指導は一般学生の場合は討論しながら毎週一回研究結果の報告をさせることが可能であるが社会人学生の場合はできない場合もある。その場合は電子メールなどのコンピュータネットワークを有効に利用し、その不十分な部分を補うようにする。その他2年次における受講などの点においては一般学生と同様な教育研究の指導を行う。

3年次における学位論文の中間審査から学位論文の受理、公聴会最終審査までのスケジュールは一般学生と全く同様に行われる。しかし、一般学生と異なり時間的制約を受けるので、指導教員は勿論審査委員会の委員はその制約に合わせる必要がある。又、学位論文作成に当たっての指導はコンピュータネットワークによる電子メールなどメディアを有効に活用して行う。

工学研究科修士課程  
(一般・社会人)

工学研究科修士課程  
(外国人留学生)

社会環境学研究科修士課程  
(一般・社会人)

社会環境学研究科修士課程  
(外国人留学生)

工学研究科博士後期課程  
(一般・社会人)

工学研究科博士後期課程  
(外国人留学生)

共通事項

# 学納金 Fees

## 入学金・授業料等 (2022年度実績)

Admission Fee and Tuition Fees (2022basis)

### 工学研究科 (修士課程・博士後期課程)

Graduate School of Engineering

(1)入学金 150,000円	Admission fee 150,000 yen
(2)授業料等 812,000円	Tuition fees 812,000 yen

### 社会環境学研究科

Graduate School of Socio-Environmental Studies

(1)入学金 150,000円	Admission fee 150,000 yen
(2)授業料等 630,000円	Tuition fees 630,000 yen

授業料等は右記のとおり2期に分けて納入することができます。  
Tuition fees may be paid in each semester as follows

上記の他、入学時に同窓会費として20,000円(内部進学者既納につき不徴収)、学生教育研究災害傷害保険料として修士課程1,750円、博士課程2,600円を徴収します。

In addition to the above, ¥20,000 for alumni association fee (exempted if you graduated FIT undergraduate), ¥1,750 from master's students and ¥2,600 from doctoral students for "personal accident insurance for students pursuing education and research" fee will be collected at the time of admission.

※2023年度学納金に金額等の変更があった場合は、大学院ホームページ等で通知します。

## ●工学研究科

Graduate School of Engineering

項目 Fees	前期 First semester	後期 Second semester
授業料 Tuition fee	280,000	280,000
施設設備費 Facility improvement fee	85,000	85,000
実験実習費 Engineering program fee	31,000	31,000
図書費 Library fee	10,000	10,000
計 Total	406,000	406,000

## ●社会環境学研究科

Graduate School of Socio-Environmental Studies

項目 Fees	前期 First semester	後期 Second semester
授業料 Tuition fee	245,000	245,000
施設設備費 Facility improvement fee	60,000	60,000
図書費 Library fee	10,000	10,000
計 Total	315,000	315,000

# 奨学金・その他制度 Scholarships & Other support

## ●奨学金の種類 Types of Scholarships

日本学生支援機構 Japan Student Services Organization  
(日本人学生対象) (Scholarship Loan Programs for Japanese Students)

- ・第一種奨学金
- ・第二種奨学金
- ・入学時特別増額貸与奨学金
- ・Category 1 scholarship
- ・Category 2 scholarship
- ・Special entrance scholarship

## ●奨学金の貸与月額 The amount of the scholarship loan per month

奨学金の種類 Type	修士課程 Master's program	博士後期 Doctor's program
第一種奨学金 (無利子貸与) Category 1 scholarship (Interest-free loan)	月額 88,000円 50,000円 88,000 yen/month 50,000 yen/month	月額 122,000円 80,000円 122,000 yen/month 80,000 yen/month
第二種奨学金 (有利子貸与) Category 2 scholarship (loan with interest)	月額5万円・8万円・10万円・13万円・15万円の中から選択となります。 To be selected out of the following amounts: 50,000, 80,000, 100,000, 130,000 or 150,000 yen	
入学時特別増額 貸与奨学金 (有利子貸与) Special entrance scholarship (Loan with interest)	1学年入学者が対象で奨学金申請時の収入金額が120万円以下又は日本政策金融公庫の教育ローンが利用できなかったことについて申告を提出した人など希望により月額10万円・20万円・30万円・40万円・50万円の増額貸与を選択できます。 To be selected out of the following amounts for first-year students: 100,000, 200,000, 300,000, 400,000, or 500,000 yen. Applicants must supply documentary evidence that they are supported from a family with annual household income below 1,200,000 yen or who is not eligible for Japan Finance Corporation loans.	

### ●学業特別奨学生制度 Honor scholarship

優秀な学生の経済的支援策の一環として、修士課程では、1 学年 9 名の範囲内で授業料の半額を免除。博士後期課程では、全員を対象に授業料の半額を免除措置しています。

※その他、各種奨学金制度があります。

For master's program 50% of tuition fees is waived up to 9 students per year. For doctor's program 50% of tuition fees is waived for all students per year.

※ We offer other various scholarships.

### ●経済的事由による奨学金 Scholarship for Financial Reasons

奨学金額：年間授業料半額免除

選考方法：選考委員会にて審査選考※1

※1：所得状況、学業成績、出席状況、小論文の評価をもとに審査

採用期間：1 年間（最大 2 年間）※2

※2：本人からの願い出により家計状況、学業成績、出席状況を吟味の上、1 年以内に限り継続することがある。

Scholarship amount: Half of yearly course tuition fees waived

Selection method: Screening by a selection committee \*1

\*1: Screening is based on the student's income situation, grades, attendance, and an essay evaluation

Period: 1 year (with a maximum of 2 years) \*2

\*2: This may be continued for a period of one year or less by the student's request, upon examination of the student's financial situation, grades, and attendance.

### ●学会発表等旅費補助制度 Financial aid for attending academic societies.

学生の学会発表等の経済的支援策の一環として、修士課程では 1 年度間に 17 万円、博士後期課程では 1 年度間に 33 万円の範囲内で旅費補助し研究活動の助成をしています。（金額はいずれも 2020 年度実績）

For attending academic societies, FIT aids the maximum of 170,000 yen for master's program, 330,000 yen for doctor's program per year. (2020 basis)

### ●同窓会・学生修学支援制度 Alumni Association – Student Learning Support System

同窓会は学生の修学、及び教育・研究意欲を高める一助として以下の 5 項目に対して表彰及び副賞を給付しています。

- (1) 学会発表支援
- (2) 研究及び技術開発等のコンテストやコンクール出場等支援
- (3) 学会誌・論文誌発表等支援
- (4) 資格取得支援
- (5) 海外語学研修及び留学支援

The Alumni Association presents awards and supplementary prizes for the following five categories as an aid to strengthen learning, education, and enthusiasm for research.

1. Support for academic conference presentations
2. Support for entering research and technological development contests
3. Support for being published in an academic journal
4. Support for acquiring certifications
5. Support for overseas language study and studying abroad

### ●TA (Teaching Assistant) 制度 TA (Teaching Assistant) System

学部の講義の補助をする TA 制度があります。

工学研究科の約 8 割の学生が TA を経験し、手当が支給されています。

大学院生への経済的な援助の側面もありますが、指導力のトレーニングを積む機会にもなっています。

人数：年度により異なる（100 名程度）

申込み時期：4 月オリエンテーション時に申込み

資格：大学院在学中の学生であること

学年：不問

金額：1 回の授業（90 分）毎に 2,500 円

There is a TA system for assisting undergraduate lectures.

Around 80% of students from the Graduate School of Engineering have experienced being a TA, with participants paid an allowance.

Financial aid to graduate students is one aspect, but it is also an opportunity to build leadership training.

Number of participants: Varies by year (around 100)

Application period: Apply at April orientation

Qualifications: Being a student enrolled in the graduate school

Academic Year: No restrictions

Pay: ¥2,500 per lesson (90 minutes)

## ●留学生奨学金 Scholarships for International Students

### 文部科学省外国人留学生学習奨励費

〈日本学生支援機構 (JASSO) 留学生受け入れ促進プログラム文部科学省外国人留学生学習奨励費について〉

我が国の大学の学部・大学院に在籍する私費外国人留学生で、学業、人物ともに優れ、かつ、留学生生活を続けていくために経済的な援助を必要とする者に対し、日本学生支援機構が文部科学省外国人留学生学習奨励費の給付事業を行っています。

#### 応募者及び受給者の条件

◆対象：「留学」の在留資格を有する者  
正規生として在籍する私費外国人留学生

#### ◆条件

- ・成績、語学能力 (日本語または英語) が JASSO の基準以上であること。
- ・仕送りが平均月額 90,000円以下であること。
- ・本奨学金との併給を制限されている奨学金等の給付を受けている者ではないこと。
- ・在日している扶養者の年収が 500万円未満であること。
- ・採用人数：大学院 1 名 (一般枠12ヶ月採用) 短大 1 名 (一般枠6ヶ月採用) (2020年度実績)
- ・給付月額学部レベル：月額 48,000円 大学院レベル：月額 48,000円
- ・給付期間：原則として 4 月～翌年 3 月までの 1 年間とします。
- ・募集時期：毎年 4 月頃、推薦者に学生課よりご連絡します。

### Monbukagakusho Honors Scholarship for Privately-Financed International Students

〈About the Monbukagakusho Honors Scholarship for Privately-Financed International Students〉

The Japan Student Services Organization (JASSO) presents the Monbukagakusho Honors Scholarship for Privately-Financed International Students to international students enrolled in undergraduate and graduate programs at our nation's universities, who are privately financed, have superb academics and characters, and who need financial assistance to continue their exchange studies.

#### Conditions for Applicants and Recipients

- Open to: Those who possess the "Student" status of residence  
Privately-financed international students who are enrolled as regular students.
- Conditions
  - ・ Grades and language ability (in Japanese or English) meeting or exceeding JASSO standards.
  - ・ Receiving an average monthly allowance of ¥90,000 or less.
  - ・ Those not receiving scholarships with restrictions on receiving this scholarship in conjunction.
  - ・ For those with a supporter residing in Japan, the supporter's income must be less than ¥5,000,000 a year.
  - ・ Number of awardees: 1 undergraduate student, 1 graduate student (typically awarded for 12 months), 1 junior college student (typically awarded for 6 months) (based on 2020 figures)
  - ・ Monthly stipend amount: undergraduate level - ¥48,000/month, graduate level - ¥48,000/month
  - ・ Payment period: In principle, for 1 year from April until March of the following year.
  - ・ Application period: Around April of every year, the Student Affairs Office will contact recommending faculty.

### 地方自治体・民間団体奨学金

学外の財団法人より奨学金の募集があった場合は、入学後に学内掲示板等にてお知らせします。

### Local and Private Scholarships

In the event of scholarship recruitment by an outside organization, we will notify students after entrance through the university's message board and other means.

## 2023年度 福岡工業大学大学院志願票

### (推薦・一般・社会人入試)

志願 研究科 専攻	工学研究科・社会環境学研究科 (いずれかを○でかこむこと)  修士課程 博士後期課程  (いずれかを○でかこむこと)  専攻		受験 番号	※本学使用欄 (記入不要)		
氏名	ふりがな			性別	(写真貼付)  上半身脱帽正面向最近 3ヶ月以内撮影のもの  (4 cm × 3 cm)	
	漢字名			男・女		
	(外国人のみ)	FAMILY NAME	MIDDLE NAME	GIVEN NAME		国籍
	ローマ字 (大文字)					
	(西暦)	年	月	日生 (満才)		
現住所	〒	-	☎	-	-	
合格 連絡先	〒	-	☎	-	-	
メール アドレス						
出願 資格	年	月	国立 公立 私立	大学	研究科修士課程  学部  学科 専攻  修了見込 卒業見込 修了 卒業	
保証人	氏名			志願者との 続柄		
	現住所	〒	-	☎	-	
志望 教員	第一志望			第二志望		
	指導教員			指導教員(注1)		

(注1) 推薦入試志願者は必ず第二志望教員を記入のこと。

学 歴 (高等学校卒業から記入すること)	
(西暦)	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
職 歴	
	年 月
	年 月
	年 月

※ 学部、学科、研究科及び専攻名まで記入すること。

大学・大学院時の学籍番号  
(本学出身のみ)

卒業研究・ゼミナール・特別研究等の概要
卒業研究・特別研究題名 _____
内 容 要 旨

2023年度 福岡工業大学大学院志願票  
(外国人留学生入試)

志願 研究科 専攻	工学研究科・社会環境学研究科 (いずれかを○でかこむこと)  修士課程 博士後期課程  (いずれかを○でかこむこと)		受験 番号	※本学使用欄 (記入不要)			
氏名	ふりがな			性別	(写真貼付)  上半身脱帽正面向最近 3ヶ月以内撮影のもの  (4 cm × 3 cm)		
	漢字名			男・女			
	(外国人のみ) ローマ字 (大文字)	FAMILY NAME	MIDDLE NAME	GIVEN NAME		国籍	
	(西暦)	年	月	日		生(満才)	
現住所	〒	-	☎	-	-		
合格 連絡先	〒	-	☎	-	-		
メール アドレス							
出願 資格	年	月	国立 公立 私立	大学	研究科修士課程  学部	学科  専攻	修了見込 卒業見込 修了 卒業
保証人	氏名			志願者との 続柄			
	現住所	〒	-	☎	-	-	
志 望 教 員	第 一 志 望			第 二 志 望			
	指 導 教 員			指 導 教 員 (注1)			



# Graduate School Application Form (International Admission 2023)

## Fukuoka Institute of Technology

Intended Degree/ Major	<input type="checkbox"/> Engineering <input type="checkbox"/> Socio-Environmental Studies		Examination Number	※For university use
	<input type="checkbox"/> M.A. program <input type="checkbox"/> Ph.D. program	Field of Major		
Full Name	(FAMILY NAME MIDDLE NAME GIVEN NAME)		Gender	Attach a photo ( 4 cm × 3 cm)  Attach a photograph taken within the past 3 month Upper body, uncover the head and face.
	In alphabets		<input type="checkbox"/> Male <input type="checkbox"/> Female	
	(If any)		Nationality	
	Chinese character			
Date of Birth (Month/Date/Year)    /    /    /    Age (as of April,2023):				
Present Address			Phone Number :	
Contact Address	*Fill in if it is different from above.		Phone Number :	
Mail Address				
Graduated Institution	Type	Undergraduate Institution Name	Major	Date (Month/Year)
	<input type="checkbox"/> National		Degree	Conferred or Anticipated Date :
	<input type="checkbox"/> Public			
	<input type="checkbox"/> Private			
	Type	Name of Graduate School	Major	Date (Month/Year)
	<input type="checkbox"/> National		Degree	Conferred or Anticipated Date :
	<input type="checkbox"/> Public			
<input type="checkbox"/> Private				
Sponsor/ Guarantor	Full Name	(FAMILY NAME MIDDLE NAME GIVEN NAME)		Relationship to Applicant
	Present Address			Phone Number
Supervisor	First choice		Second choice	
	Name of Supervisor		Name of Supervisor	



## 2023年度 写真票 Photo Sheet 2023

推薦・一般・社会人・外国人 (いずれかを○でかこむこと)  
Recommendation, General, Working Adult, International  
(Put circle to corresponded type.)

受験番号※ Examination No.	
修士課程・博士後期課程 (いずれかを○でかこむこと) M.A.program Ph.D.program (Put circle to corresponded type.)	
学研究科 Major	専攻 Field of Study
ふりがな	男・女
氏名 Full Name	Gender M/F

\*Fill in section/department only applying for Faculty of Engineering.

(写真添付欄) Paste a photo 上半身脱帽正面向最近 3カ月以内撮影のもの Attach a photograph taken within the past 3 months. Upper body, uncover the head and face. (4 cm × 3 cm)
--

福岡工業大学大学院  
Graduate School  
Fukuoka Institute of Technology

### 記入上の注意事項

- ※印以外の箇所は洩れなく記入し、該当事項を○で囲むこと。
- 記入はインク又はボールペンを用いて楷書で、明瞭に記入すること。
- 志願票と写真票に貼る写真は同一のものを使用すること。
- 履歴書(志願票裏面)の学歴は、特に注意すること。

### Notes

- Completely fill in all items except \* mark area, and put circle to corresponded type.
- Use a pen to fill in clearly.
- Use the same pictures on both Application form and Photo sheet.
- Fill in Academic Background with care.

## 2023年度 受験票 Examination Card 2023

推薦・一般・社会人・外国人 (いずれかを○でかこむこと)  
Recommendation, General, Working Adult, International  
(Put circle to corresponded type.)

受験番号※ Examination No.	
修士課程・博士後期課程 (いずれかを○でかこむこと) M.A.program Ph.D.program (Put circle to corresponded type.)	
学研究科 Major	専攻 Field of Study
ふりがな	男・女
氏名 Full Name	Gender M/F

\*This card is required to bring in on the day of examination.



福岡工業大学大学院  
Graduate School  
Fukuoka Institute of Technology

## 2023年度 受験料納金票 Examination Fee 2023

推薦・一般・社会人・外国人 (いずれかを○でかこむこと)  
Recommendation, General, Working Adult, International  
(Put circle to corresponded type.)

※受験番号 第 号  
Examination No.

金額 30,000 円  
JP¥ 30,000-

上記の通り納金します。

西暦 年 月 日  
Date (year/month/date/)

氏名  
Full Name :

福岡工業大学大学院  
Graduate School  
Fukuoka Institute of Technology

## 研究経過報告書の記入について

次の①～③の項目について、図表を含めてよいので、わかりやすく記述してください。

指定枚数はA4サイズ4～8枚(10.5ポイント)、タイトルには「研究経過報告書」(14ポイント、中央寄せ)として、氏名を記入してください。

- ①現在までの研究状況、修士論文の概要(研究の背景、問題点、解決方策、研究目的、研究方法、特色と独創的な点など)
- ②これからの研究計画(研究目的、研究方法、研究内容など)
- ③年次計画

---

(記入例)

### 研究経過報告書

氏名 福工大太郎

- ①現在までの研究状況

修士論文では、.....

- ②これからの研究計画

研究の目的は、.....

- ③年次計画

1年次.....

2年次.....

3年次.....

## How to prepare the Research Progress Report

Please clarify your research progress including figures and diagrams in regard to the following 1 to 3 points in 4 to 8 pages of A4 size with letters of 10.5 points.

Write the title Research Progress Report in the center with letters of 14 points.

1. Research progress up to present as well as summary of master's thesis  
(Research Background, Problem Areas, Solutions, Research Target,  
Research Methods, any appeal points, etc.)
2. Future research plan (Research purpose, research methods, research content, etc.)
3. Annual research plan

---

Example :

### Research Progress Report

Full Name : \_\_\_\_\_

1. Research Progress situation up to present

In my Master's thesis,

2. Future Plan

Purpose, of my research is

3. Annual Research Plan

First year \_\_\_\_\_

Second year \_\_\_\_\_

Third year \_\_\_\_\_





## 研究業績等の記入について

次の①～⑥の項目について、記載してください。受験者氏名にアンダーラインを付すこと。

枚数は問いませんが、用紙はA4サイズ(10.5ポイント)、タイトルには「研究業績」(14ポイント、中央寄せ)として、氏名を記入してください。

- ①学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文、著書(査読の有無を区分して記載してください。)  
著書(全員の氏名を、論文と同一の順番で記載してください。) 題名、掲載誌名、発行所、巻号、pp開始頁-最終頁、発行年の順に記入してください。
- ②学術雑誌等又は商業誌における解説、総説
- ③国際会議における発表(口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して記載してください。)  
著書(全員の氏名を、論文等と同一の順番で記載してください。) 題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。発表者に○を付してください。
- ④国内学会・シンポジウム等における発表  
③と同様に記載してください。
- ⑤特許等(申請中、公開中、取得を明記してください。ただし、申請中のもので詳細を記述できない場合は概要のみの記述で構いません。)
- ⑥その他(受賞歴等)

(記入例)

## 研 究 業 績

氏名 福工大太郎

①学術雑誌

・

②なし

③国際会議における発表

・

・

④国内学会・シンポジウム等における発表

・

・

⑤なし

⑥受賞歴

・

## How to prepare the List of Research Works

Prepare the list of your research works in regard to the following 1 to 6 in A4 size with letters of 10.5 points. Write the title List of Research Works in the center with letters of 14 points and use the pages as you wish.

1. Papers in academic journals, etc or books with/without referees. Please indicate if there is any referee.  
(All authors, Title, Name of Journal, Publisher, Volume, No.of page (pp•to pp•), Year of publishing)
2. Commentary in academic journals or commercial journals.
3. Presentation at any international conference. Please clarify it is oral or poster-session, and indicate if there is any referee.  
(All authors, Title, name of academic society, No. of papers, Place, Year)  
Please indicate the presenter.
4. Presentation at a domestic academic society or symposium same as the above 3.
5. Patents, etc. if any (In the process of application, open to the public, acquisition)  
Please describe only outline in case of process of application.
6. Other (Prizes awarded, etc)

---

(Example)

### List of Research Works

Full Name : \_\_\_\_\_

1. Papers in academic journals, etc or books with/without referees.
2. Commentary in academic journals or commercial journals.
3. Presentation at any international conference.
4. Presentation at a domestic academic society or symposium.
5. Patents, etc. if any.
6. Other (Prizes awarded, etc)

## 大学院生受入承諾書

福岡工業大学学長 殿

\_\_\_\_\_学研究科\_\_\_\_\_専攻

職 \_\_\_\_\_氏名 \_\_\_\_\_印

下記の者が本学の大学院入学試験合格後は、受入教員として、研究指導を行うことを承諾します。

記

志願者氏名： \_\_\_\_\_

※応募の際には、必ず事前に本学の指導教員の受け入れ承諾を受けて下さい。

## Letter of Acceptance

To : President

Fukuoka Institute of Technology

Major : \_\_\_\_\_

Position : \_\_\_\_\_

Name of Supervisor : \_\_\_\_\_

(Signature)

I hereby notify that I accept the following candidate towards his/her graduate degree (master or doctor) after he/she has been admitted to Fukuoka Institute of Technology.

Name of Applicant : \_\_\_\_\_

Note : Please have an acceptance from your academic supervisor prior to application.



## 受験許可・承諾書 (社会人入試)

福岡工業大学学長 殿

氏 名 \_\_\_\_\_

生年月日 (西暦) 年 月 日生

上記の者が、(西暦) 年度福岡工業大学大学院 \_\_\_\_\_ 研究科  
修士・博士後期課程の入学試験を受験することを許可します。

なお、同人が貴大学院に入学した場合には、在職のまま就学することを承諾いたします。

(西暦) 年 月 日

住 所

機関名

所属長

印

# 留 学 同 意 書

## CERTIFICATE OF AGREEMENT

福岡工業大学長 殿

To President of Fukuoka Institute of Technology

学 生 氏 名 Name of student	
生 年 月 日 Date of birth	(西暦)                      年                      月                      日生 (year)                      (month)                      (day)
国 籍 Nationality	

私は、上記の者が福岡工業大学大学院外国人留学生として入学することに同意いたします。

また、本邦在留中同人にかかわる一切の責任を負うことを誓約いたします。

I, as guardian of the above-mentioned student, hereby consent to his (her) entering to Fukuoka Institute of Technology as a student of the graduate division.

I also agree to assume any and all responsibilities while he (she) stays in Japan.

日 付 Date of Agreement	20                      年                      月                      日 (year)                      (month)                      (day)
親 権 者 氏 名 Guardian's Full Name	署 名 Signature
現 住 所 Present Address	〒                      —                      電 話 Phone
職 業 Occupation (in detail)	電 話 Phone
本人との関係 Relation to the Applicant	

## 受験科目届出書

工 学 研究科 修士 課程 社会環境学 <small>(いずれかを○でかこむこと)</small>	専攻志願
氏 名	

受験希望科目を記入してください。

	科 目	科 目	科 目
受 験 科 目			

◇生命環境化学専攻

専 門 Ⅱ 無機化学、有機化学、分析化学、生物化学、物理化学、食品化学  
(6科目中、3科目選択)

◇知能機械工学専攻

専 門 Ⅱ 材料力学、機械力学、熱力学、流体力学、計測制御 (5科目中、2科目選択)

◇電気工学専攻

専 門 Ⅱ 電気磁気学、情報制御工学 (2科目中、1科目選択)

◇情報通信工学専攻

専 門 Ⅱ 電子回路、電気磁気学、プログラミング言語 (C)、情報処理  
(4科目中、2科目選択)

◇社会環境学専攻

専 門 Ⅰ 環境経済学、環境経済政策、環境技術経営、環境経営学、環境会計、  
環境保全学、国際法学、環境政策、民俗学 (9科目中、1科目選択)

※届出科目以外を受験した場合は、採点されません。

# Fukuoka Institute of Technology

入試に関するお問い合わせ

---

**福岡工業大学 入試課**  
(本部棟2F)

〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30番1号  
☎(092)606-0634(直) FAX(092)606-7895  
E-mail nyushi@fit.ac.jp